

～平和の反対は戦争ではない。平和と戦争に対する無関心である～

「無関心」な子どもをつくらないために

「反戦・平和学習」実践資料集



北九州市教職員組合

私が言っているのは本物の平和である。

それは人生が生きるに値すると思わせる平和であり、
すべての人々や国々を発展させ、
夢を抱かせ、
子供たちのためにより良き生活を打ち立て得る
平和である。

それはアメリカ人だけのための平和ではなく
全人類のための平和であり、
我々の時代だけの平和ではなく
全ての時代の平和である

ジョン・F・ケネディ

北九州市非核平和都市宣言

平和な世界の実現は、人類共通の願いです。

私たちの国、日本は、世界で唯一の核兵器の被爆国として、この地球上で再び広島や長崎の惨禍を繰り返してはならないことを、世界の人々に強く訴え続けてきました。

私たち北九州市民は、長崎に投下された核兵器の第一目標が小倉であったことを重く受け止め、核兵器の恐ろしさ、戦争の悲惨さ、平和の尊さを、次の世代に伝え、核兵器のない、戦争のない、平和な世界を築いていかなければなりません。

よって、私たちは、命と平和の大切さを深く認識し、核兵器の廃絶と平和な世界の実現のために歩み続けることを誓い、ここに北九州市を非核平和都市とすることを宣言します。

平成 22 年 2 月 10 日北九州市

知っておきたい平和の節目

4月	28日【沖縄・「屈辱の日」 (サンフランシスコ講和条約)①】	①1952年4月28日にサンフランシスコ講和条約が発効。敗戦後、連合国軍の占領下にあった日本は条約発効で独立を果たしたが、沖縄や奄美は日本から切り離された。日本国憲法が適用されず、人権が蹂躪(じゅうりん)された。過重な基地負担など現在の沖縄差別の源流ともなったこの日は「屈辱の日」と呼ばれる。
5月	3日【憲法記念日】 15日【沖縄返還】	②1937年7月7日、北京郊外の盧溝橋で夜間演習をしていた日本軍が、実弾の射撃音を聞いたとして近くの中国軍と戦闘になった事件。日本政府は当初、不拡大の方針を唱えたが、旧陸軍の強硬派に引きずられ、日中の全面戦争の発端となった。
6月	23日【沖縄慰霊の日】 29日【門司空襲】	
7月	7日【盧溝橋事件②】	③1923年9月1日午前11時58分、関東大震災発生。死者・行方不明者が10万人を超える大混乱の中、日本の官憲そして民衆たちが「朝鮮人が暴動を起こして井戸に毒薬を投げ込んだ」、「強盗、強姦、殺人を犯している」というデマを広げ、軍隊、警察だけでなく、在郷軍人会や、消防団、青年団が中心となって組織した民間人による自警団が各地で6000人を超える朝鮮人を無差別に虐殺した。
8月	6日【ヒロシマ原爆の日】 8日【八幡(若松・戸畑)大空襲】 9日【ナガサキ原爆の日】 15日【敗戦記念日】 15日【韓国では独立記念日・光復節】	④1931年9月18日、中国東北部の奉天(現在の瀋陽)郊外にある柳条湖で南満州鉄道の線路が爆破された。これを機に、現地の日本軍は「爆破は中国側の仕業」として軍事行動を開始、満州事変の発端となった。真相は日本軍の自作自演だった。
9月	1日【関東大震災・朝鮮人虐殺事件③】 18日【柳条湖事件④】 19日【安保関連法案強行採決】	⑤1966年10月21日、日本の労働組合のナショナルセンター(全国組織)であった日本労働組合総評議会(総評)が、米軍の北ベトナム空爆に抗議する「ベトナム反戦統一スト」を敢行。総評は全世界に連帯行動を呼びかけ、世界に拡大したことで歴史に刻まれる日となった。
10月	21日【国際反戦デー⑤】	⑥2月11日の「建国記念の日」は、神話をもとに明治政府が制定し侵略戦争を美化し天皇を賛美する象徴的な日だった戦前の「紀元節」を1967年にときの政府・自民党政権が各界の反対を押し切って制定した日。
11月		⑦1954年3月1日未明、アメリカは太平洋ビキニ環礁において広島型原爆の約1000倍の威力をもつ水爆実験(ブラボー)をおこなった。焼津のマグロはえ縄漁船「第五福龍丸」は、アメリカ政府の指定した危険区域外で操業中であつたにもかかわらず、「死の灰」を浴び、23人の乗組員全員が急性放射能症にかかり、無線長の久保山愛吉さん(当時40歳)は「原水爆の被害者はわたしを最後にしてほしい」と言い残してその年の9月に亡くなった。この3・1ビキニ事件は、日本国民に大きな衝撃をあたえ、広島・長崎をくりかえさせるなど、全国に原水爆禁止の声がまきおこり、翌55年8月に第1回原水爆禁止世界大会が開催された。
12月	8日【太平洋戦争開始の日】	
1月		
2月	11日【建国記念の日⑥】	
3月	1日【ビキニデー⑦】 【三・一独立運動⑧】	⑧1919年3月1日、ウィルソンの「民族自決」の原則に期待し、日本の植民地支配を世界に訴え、独立宣言を発表してパリ講和会議に請願しようとした孫秉熙ら33名が日本の官憲に逮捕された。彼らを支持した学生や民衆が数千名、京城のパゴダ公園に集まって独立宣言を読み上げ、「朝鮮独立万歳」を叫んだ。日本の朝鮮総督府は軍隊と警察で弾圧したが、動きは全土に拡がり5月まで断続的に繰り返され数千人の死者、5万人近い逮捕者が出た。日本には単なる騒擾事件としてのみ伝えられて万歳事件といわれ、独立運動としての詳細は報道されず、日本国民もほとんど知ることはなかった。

あなたは子どもとどんな平和学習をしたいですか？

沖縄戦・・・P4～

ヒロシマ・ナガサキ・・・P12～

かよ子桜(特別支援学校のといくみ)・・・P19～

天気予報がなくなった日・・・P23

8・8八幡大空襲・写真資料・・・P25

北九州の戦争・戦跡・・・p28～

中学校のといくみ(アンパンマン・ドラマ・映画・絵画から)・・・p34～

「8・6 平和のつどい」から生まれた教材たち・・・p43～

「自作映画」で平和を伝えたい・・・p43～

平和を考える絵本・紙芝居・・・p48～

平和アニメ DVD・・・p54～

歌で平和を伝えたい・・・p58～

「8・6 平和のつどい」で歌われた曲たち(一部)・・・p61～

「自由と平和のための京大有志の会 声明書」と「わたしのやめて」・・・p63～

反戦・平和のことば集・・・p64～

ヒトラーとゲーリングの言葉から学びたい・・・p66

日本や世界は、どこに向かっているの？・・・p67





平和学習に関する授業実践

1 年

1. 題名・主題名 へいわってすてきだね
2. ねらい
沖縄県に住む6歳の少年の詩をもとに描かれた絵本を読み聞かせ、「平和とはなにか?」「自分にできることはなにか?」を考えるを通して、これからも平和が続いてほしいという思いをもつことができるようにする。
3. 資料(資料の名称、出典・出版社等、視聴覚機器など)
「へいわってすてきだね」 詩: 安里 有生 画: 長谷川 義史 (ブロンズ新社)

学習活動	指導上の留意点及び子どもの反応	準備
1. 沖縄戦について、教師から話を聞く。	○読み聞かせの前に、沖縄慰霊の日について振り返る。	publicに絵本の画像を入れる
2. 「へいわってすてきだね」の読み聞かせを聞く。	○この詩を書いたのは、沖縄に住む小学一年生であることを伝え、自分事として興味をもって聞けることができるようにする。 ○内容が理解できるように、ゆっくりと読んだり絵を示したりする。	
3. ずっと平和が続くように、できることはなにかを考える。	○「これからも、ずっとへいわがつづくようにぼくも、ぼくのできることからがんばるよ。」という安里くんの言葉に着目させ、自分にできることはなにかを考えさせる。 ○共感的な雰囲気の中で発言できるように配慮する。	
4. 学習を振り返る。	○戦争のない、平和な世界をみんなで作っていくという気持ちを持たせるようにまとめる。	

成果や課題・子どもの感想

- 「戦争で、家族が死んでしまうこと、くるしむところがかたかった。」
- 「ごはんをおなかいっぱい食べられることは幸せなこと。残さず食べるようにしたい。」
- 「ぼく達にできることは、戦争から人々を助けたり戦争にまきこまれたりしないように、たくさん本を読んだり勉強したりして知ることだと思う。」
- 「家族や友達をずっと大切にすれば、平和がずっと続くと思う。」
- 絵本やクラスで交流した内容について、十分に理解できなかった児童もいた。平和に関する指導を継続して行っていくことで、戦争を絶対に起こさないという心情を育てていきたい。

1. 題 材 「へいわってすてきだね」 2. ねらい ○ 戦争がもたらすかなしい出来事や、「平和」であることのすばらしさを知ることを通して、「戦争をしない」「命を大切にする」という強い気持ちを育てる。 3. 資 料 絵本「へいわってすてきだね」	
学 習 活 動	指導上の留意点・児童の反応等
1. 「沖縄県」は、どんなところかについて知る。 2. 絵本「へいわってすてきだね」の読み聞かせを聞き、「平和」について考える。 3. 「これからも、ずっとへいわが つづくように ぼくも、ぼくのできることから がんばるよ」という絵本の中の言葉から、自分たちにも出来ることを考え、発表する。	○ 「沖縄県」の様子分かる写真を見せたり、教師が話をしたりして、沖縄県がどのようなところについて知ることができるようにする。 ○ 「三郎丸小学校に爆弾が落とされた日」の取り組みから、74年前、日本では戦争があったことを思い出し、沖縄県では唯一、地上戦があったことを伝え、本時では「平和」について学習していくことを確認する。 ○ 作者が自分たちと同じ小学校1年生だと伝え、話に興味をもつことができるようにする。 ○ 絵本の中の絵をふり返りながら、戦争の悲惨さ、平和のすばらしさについて考えることができるようにする。 ○ 「へいわってすてきだね」という言葉から、「平和」とは、どんなことを考え、今、当たり前に行っていることは、「平和」だからできているということに気付くことができるようにする。 ○ 「平和」が続くために、自分たちにもできることを、身近なことから考えられるようにする。 ・ともだちと なかよくする。 ・いのちを たいせつにする。 など

平和学習に関する授業実践 5年

1. 題 材
2. ねらい ○ 沖縄戦に関する新聞の切り抜きを読み、戦争の悲惨さや人々への影響を知り、平和の大切さについて考える。
3. 資 料 読売新聞（2014/6/21, 22, 23「わらばーの沖縄戦」）

学 習 活 動	指導上の留意点・児童の反応等
1. 6月23日が沖縄戦の戦没者を追悼する「慰霊の日」であることを知らせ、沖縄戦について、知っていることを話し合う。 2. 子どものころに沖縄戦を体験した「語り部」の方々の記事を読み、考えたことを話し合う。 ・宮崎への学童疎開 ・女子学徒隊として病院壕で体験したこと ・食糧不足とマラリア ・映画づくりへの思い ・夜間中学で文字を習う 3. ふり返りをして、自分の考えを書く。	・昨年見た沖縄戦のパネルを思い出させる。 ・今日は、そこに住んでいた人々に注目して学習することを知らせる。 ・難しい言葉を言い換えたり、説明を加えたりしながら新聞の切り抜きを読む。疑問に答えたり、つぶやきや感想を交流したりしながら、理解を深めるようにする。 ・「対馬丸の話聞いたことがある。」 ・「のこぎりで足を切る・・・うわぁ・・・」 ・「この人、今も生きてるんですか。」 ・「ほたるの墓みたい。」 ・「なんで字が読めんの？」 ・「学校行かんと字が読めんのか。」

成果や課題・子どもの感想など

- ・戦争で勉強する時がなくて、80才でやっとひらがなを習っていることにびっくりしました。
- ・戦争をしていると、字が分からないんだなと思いました。
- ・としさんが、夜間学校に行って、字が読めたり書けたりするようになって、よかったと思いました。
- ・としさんが「勉強が楽しい」と言ってよかった。わたしもがんばらなきゃと思った。
- ・戦争を体験した人は、今の平和な時代でも、戦争をおそれていると思った。
- ・昨日テレビでお墓参りをしている人を見ました。戦争は人がいっぱいなくなっていたのでかわいそうです。

1. 題 材 「沖縄戦とひめゆり学徒隊」 2. ねらい ○ DVD「ひめゆり学徒隊」を見て、沖縄戦について知るとともに、戦争の怖さや命の大切さを感じ取り、自分たちにできることを考えることを通して、平和を守ろうとする心情を培うようにする。 3. 資 料 DVD「ひめゆり学徒隊」	
学 習 活 動	指導上の留意点・児童の反応等
1. 戦争について知っていることを話し合う。 ※6・23について ※「がま」について 2. DVD「ひめゆり学徒隊」を視聴する。 3. M先生の説話を聞く (沖縄で戦争を体験したM先生の祖父・祖母の話を聞く。) 4. 感想を発表する。 5. 平和について考え、学習を振り返る。	○ 既習の平和学習を想起させ、戦争が自分たちの生活にもたらすであろうことを考えさせる。 ○ 6月23日は沖縄慰霊の日、「がま」とは自然洞窟で、沖縄戦で住民が避難したり野戦病院の場所でもあったりしたことを知り、日本で唯一の地上戦があった沖縄について知らせる。 ○ ひめゆり学徒隊だった人がナレーターを行うことで、実際の話であることが分かる。その中、当時の沖縄の様子や戦争が厳しくなっていく様子などを映像で見ることにより、人間の起こした愚かな戦争について考えさせるようにする。 ○ M先生が祖母から聞いた話を聞き、罪のない住民までもが命を落としたことに目を向けさせ、戦争がどれだけ多くの悲しみを生んだかに気付かせる。 ○ 戦争・平和について思ったことを自由に書くようにさせる。 ○ 戦争のない世の中にするために、自分たちがまず、今、できることは何かを考えさせる。 ・ けんかをしない。

成果や課題・子どもの感想など

- DVD「ひめゆり」は、どの児童も真剣に食い入るように視聴していた。
- M先生の話は、実際の話でもあり、どの児童も命の尊さをしっかりと考えることができた。
〈児童の感想〉
- 戦争は二度としたくない・戦争はなくなってほしいです。
- 戦争は、自分ができる全ての権利をうばうことを知りました。
- 戦争の恐ろしさ、命の大切さを改めて考えることができ、今の自分がどれだけ幸せなのかを感じました。平和な世界になるように、まず、友達一人一人を大切にしていきたいです。



「月桃の花」～沖縄戦

《授業への思い》

- ☆ 戦争の恐ろしさ、戦争が奪ったもの、その中でも必死に生きようとした人の思いに気付いてほしい。
- ☆ 「正しいことを正しい」「おかしいことはおかしい」と言えるように、自分でしっかりと考えることの大切さに気付いてほしい。人の命、思いを大切にできる世の中をつくっていくこと。

《題材、教材》 サトウキビ畑（CD、歌詞カード） 「月桃の花」（紙芝居）
沖縄の海、サトウキビ畑、月桃の花…等の写真

《流れ》

学習活動	指導上の留意点、子どもたちの反応など
1. 沖縄での戦争について知る。 (1) 沖縄の写真を見て、感想を出し合う。 (2) サトウキビ畑の歌を聴く。	* 海の写真やサトウキビ畑の写真から ・きれい ・泳いでみたい ・リゾート地 ・幸せな感じ ・平和な感じ …など * 「ざわわ ざわわ…」の歌詞に込められた作者の思いを伝える。（戦没者の悲しみや怒りの泣き声） * 沖縄戦について説明する。 ・ 沖縄は、日本で唯一「地上戦」が行われた場所であること ・ 6月23日は、組織的な戦闘が終結した日として「慰霊の日」とされていること ・ 日本人、外国人も含め、約24万（239,092）人の方が亡くなったこと（当時の沖縄の人口の四分の一に当たる）
2. 「月桃の花」の紙芝居を聞く。	* 学年によって内容が難しいところは、補足説明をしながら読み聞かせる。
3. 今まで聞いた戦争の話と似ているところ、ちがうところについて考える。	* 似ているところ ・ たくさんの方が亡くなった。・食べ物がない。 ・ いろいろなものが無くなっていった。 * ちがうところ ・ 日本兵に殺された人もいた。 ・ 自分で自分の命を絶った人もいた。
4. 戦争に対する思いを出し合い、まとめる。	* 「ちがうところ」について考えさせる。 ・ なぜ、日本兵は住民を殺すことになったのだろう。 ・ なぜ、自分で自分の命を絶ったのだろう。 * 戦争が人の心を奪っていくこと、正しいことを

	正しいと言えない世の中の恐ろしさ、知らないうちに少しずつ当たり前が変えられていく、正しさが変えられていく恐ろしさ ＊ しっかりと正しいことを自分の頭で考えること、間違いは間違いと言えることが大切
--	---

《子どもたちの様子および課題》

子どもたちは、真剣に話を聞いていた。原爆や三郎丸の空襲のこと、たくさんの人が亡くなったことは、これまでの学習で知っているようだった。いろいろな話と比べて考えたとき、戦争では、「大切なものがなくなってしまう」「人間の命だけで泣く、動物の命もなくなる」ということを言っていた。紙芝居の話を聞いて、「『ちいちゃんのかげおくり』では、みんな生きようと必死で逃げていたのに、『月桃の花』では、必死に逃げていた人もいたけど、自分で死んでいった人がいたことが不思議だった。」「敵に捕まったら、恥と言っていたけど、捕まっても死んでしまうより、生きていた方がいい。生きることは、恥ではない。」という意見も多かった。しかし、中には、「自分で死を選ぶのは、勇気のいることだと思う。昔の人は心が強い。」という感想を持っていた子もいた。当時、国のために命を差し出すことが正しいと教育されてきたことを伝え、これから自分でしっかりと考えることが大切だと言うことを伝えた。偏った見方にならないように、今後もいろいろな場面をとらえ、学習を深めていきたい。

1. 題 材 「 対馬丸 」 2. ねらい ○「対馬丸」を視聴して、当時の沖縄の子どもたちのことを知り、平和について考える。 3. 資 料 DVD「対馬丸—さようなら沖縄—」	
学 習 活 動	指導上の留意点・児童の反応等
1. 「対馬丸」という船について知る。 2. 「対馬丸」を視聴する。 3. 視聴した感想を書く。 4. 感想を交流する。	○ 沖縄戦について学んだことを想起し、戦場から非難するために対馬丸で子どもや疎開した事実を知らせる。 ○ 言葉や状況等、補足をする。 ○ 誰もが戦争に巻き込まれた悲惨さや、命があっても事実を話すことさえ許されなかった状況を押さえる。 ○ 感想が書けない児童には、沖縄の状況や戦争中の人々の生活について説明しながら、感じたことを聞き取り、指導する。 ○ 戦争を他人事に考えず、自分事と感じられるようにする。また、自分たちの手で平和な未来が作ることができることを伝える。
成果や課題 ★ 埋蔵文化財センターでの小倉の戦争展示、DVD「北九州～戦争の記憶～わたし達への伝言」、三郎丸に爆弾が落とされた日、沖縄戦の学習等、今までの学習も含めて、しっかりと戦争の現実を捉えられるようになってきたと感じた。 子どもの感想など ○ もし戦争が起こって、三郎丸小が兵士の宿舎になったら、戦争がいよいよ始まるということと思いました。だから、ちょっとしたけんかでも、お互い何がいやだったか気遣い合おうと思いました。この学習をして、戦争はしたらいけない・やらないということを心に深く刻みました。 ○ 「対馬丸」の学習をして、自分の命が毎日当たり前にあるとは限らないと思いました。この前、戦争体験者の方の話をビデオで見ましたが、朝起きて自分の命があったということとはとてもうれしいことと言っていました。戦争を体験した人は、朝起きたときに命がある大切さを誰よりも知っていると思いました。 ○ 対馬丸を学習して、死んでも生存しても悲惨でつらく悲しいと思いました。8月6日、9日、15日は、戦争について考える大事な日なので、この学習を思い出しながら考えたいと思います。戦争体験者の不安だった気持ちが分かりました。わたしたちは、沖縄戦や第二次世界大戦、太平洋戦争などのことを次の世代に伝えていき、自分自身も戦争の悲惨さを忘れては絶対にいけないと思いました。戦争は、絶対してはいけないものです。	



平和に関する学習授業実践 1年

1 題材 「へいわについて」

2 ねらい

○ 戦争がもたらすかなしい出来事を知り、戦争をしないという強い気持ちを育てる。

3 資料 DVD「おこりじそう」

学 習 活 動	指導上の留意点・児童の反応等
1 三郎丸小学校に爆弾が落ちた日の話を想起する。	○ 小学校の運動場で、爆弾投下によって児童や先生が亡くなった話を思い出し、戦争について知っていることを話し合う。
2 めあてについて確かめる。	
◆ おじそうさんのかおは どうしてかわったのでしょうか。	
3 DVD「おこりじそう」を視聴し、おじそうさんの顔の変化について話し合う。	
(1) にっくりのおじそうさんの顔がどう変わるか想像する。	○ タイトルを確認したり、黒板におじそうさんの絵を提示することで、おじそうさんの表情の変化に興味をもつ。
(2) DVD を視聴する。	○ おじそうさんの表情がいつ変化するのか、考えながら視聴することで、戦争の悲惨さを実感させる。
(3) おじそうさんの顔がどうなったか、変化の途中に何が起こったかを話し合う。	○ 内容を想起させ、何が起こったか確認し「原子爆弾」という言葉について知る。
(4) 原爆投下について感じたことを書く。	○ ひろちゃんの死について考えさせ、戦争の悲しさを感じさせる。
4 戦争のない世の中にするために、じぶんたちができることを考え、本時をふりかえる。	○ 戦争につながっていく身近な争いを想起させ、自分たちで戦争のない世の中にしていけることに気付かせる。

成果や課題・子どもの感想など

お話が、同じ年頃の女の子が主人公であるということで、感情移入しやすかったようである。2週間前に全校放送で聞いた本校での戦時中でのエピソードを重ねながら、今生きている喜びや、命を奪われた主人公の悲しさをしっかりと理解できていた。

〈児童の感想より〉

- ・けんかをして、ちゃんとかなおりをしたい。
- ・ひろちゃんはしんで、かわいそうだった。せんそうは、ぜったいにしないほうがいい。



平和に関する学習実践レポート

2年

題材名(資料名) おこりじぞう

ねらい

原子爆弾について知り、戦争の恐ろしさを感じるとともに、平和を守ることの大切さに気付く。

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1. 戦争について知っていることを話し合う。 2. 昔、日本でも戦争があったことや、戦争の時に原子爆弾が落とされたことを知る。 3. 「おこりじぞう」のDVDを見る。 4. 「おこりじぞう」の話を聞いて、思ったこと、考えたことを発表し合う。 5. 平和について考え、感想を書いて学習のまとめをする。	○ 今までに、本で読んだり、周りの人から聞いたりして、知っていることなどを自由に話させる。 ○ 過去に日本が戦争をしていたことや、今から72年前の8月6日に広島、9日に長崎に原子爆弾が落とされたことを伝え、戦争でたくさんの人が犠牲になったことを知らせる。また、長崎に落とされた原子爆弾は小倉に落とされるはずだったことも知らせる。 ○ 言葉の意味など、必要に応じて解説する。 ○ なぜ、「わらいじぞう」が「おこりじぞう」になったのか、何に対して「おこりじぞう」は怒ったのかを考えさせる。 ○ 今、世界のあちこちでまだ戦争をしている国があることを伝える。 ○ 平和な世界を作るために、自分たちができることについても考えさせたい。
○ 児童の反応、感想、変容など ・ 「おこりじぞう」のDVDは、内容も分かりやすく、児童は集中して視聴することができた。 ・ 原子爆弾が小倉に落とされていたかもしれないという事実を知って、驚く児童もいた。 ・ 「何でおこりじぞうになったのかな。」とDVD視聴後すぐに考える児童がいた。 〈児童の感想〉 ・ 戦争は、すごく恐ろしいと思いました。 ・ 戦争が起きてほしくないです。 ・ 死んじゃった人たちは、すごくかわいそうです。 ・ これ以上人が亡くならないようにしたいです。	



平和に関する学習授業実践

1. 題 材 平和について考えよう
2. ねらい ○「おこりじそう」のDVDを視聴し、戦争の悲惨さや平和・命の大切さについて感じ、今、自分にできることを考えるようにする。
3. 資 料 「おこりじそう」

学 習 活 動	指導上の留意点・児童の反応等
1、「お地蔵さん」について、自分の持っている印象などを自由に発表させる。	○「かさ地蔵」の読み聞かせを思い出させる。優しいお地蔵さんが、「おこる」とは、どういうことなのかを考えさせ、自由に発表させるようにする。
2. お地蔵さんは、なぜ、怒ったのかを考えながら、「おこりじそう」のDVDを視聴する。	○当時の生活の様子を今の生活の様子のちがいについて補足する。戦争について分かりやすく説明する。
3. 感想を発表する。	○「おこりじそう」は、「なぜ、怒ったのか」という視点を示しながら、発表させるようにする。 ○人々の命や生活を奪った原子爆弾、戦争について考え、平和の尊さを実感させるようにする。
4. 世界には、まだ、戦争や紛争などが起こっていることを知り、今、自分たちにできることを考える。	○命を大切にするために、自分達が今できることを考える。 ・友達と仲良くする。 ・思いやりの気持ちをもつ。 ・相手の気持ちを考える。 ・人をたたいたり、悪口を言ったりしない。

成果や課題・子どもの感想など

お話が、同じ年頃の女の子が主人公であるということで、感情移入しやすかったようである。子ども達はお地蔵さんが怒った理由を「ひろちゃんが死んだから」と、戦争で命が亡くなったことだと考えた。上級生から世界ではまだ戦争があつてること、テロが怖いことなどの話題があつたので、担任が補足した。今一人ひとりができることはないのかという質問に、

- ・友達となかよくしたい。
- ・友達の気持ちを考えて行動したい。
- ・けんかをしても、なかなかおりをする。

などの意見がでた。身近な生活の中から自分ができることを頑張っていきたいという意欲が見られた。



1. 題 材 「 ながさきのこうま 」

2. ねらい ○ DVD「ながさきの子馬」を見て、戦争の恐ろしさ、命の大切さを感じ取り、自分たちにできることを考えることを通して、平和を守ろうとする心情を培うようにする。

3. 資 料 DVD「ながさきのこうま」

学 習 活 動	指導上の留意点・児童の反応等
1. 戦争について知っていることを話し合う。	○ 日本が70年以上前に戦争をしてたくさんの犠牲を払ったことや辛い思いをしたことを知らせる。
2. 「ながさきの子馬」を視聴する。	○ 主人公を確認し、実際に起こった話であり、動物の視点で人間の起こした愚かな戦争が描かれていることをとらえさせる。
3. 感想を書き、発表する。	○ 登場物のことや戦争・平和について思ったことを自由に書くようにさせる。 ○ 罪ない動物までもが命を落としたことに目を向けさせ、戦争がどれだけ多くの悲しみを生んだかに気付かせる。
4. 平和について考え、学習を振り返る。	○ 世界には、戦争や紛争、テロなどで今も苦しんでいる国や人々がいることを知らせる。 ○ 戦争のない世の中にするために、自分たちがまず、今、できることは何かを考えさせる。 ・ けんかをしない。 ・ 友達にやさしくする。など

成果や課題・子どもの感想など

- 既習学習で戦争の恐ろしさや悲惨さは感じている。今回、原子爆弾の威力について説明すると、1発の爆弾がこんな悲劇を起こすことに対する驚きや惨さを更に実感することができたと思う。
- DVDは、どの児童も真剣に食い入るように視聴し、戦争は二度としたくない、戦争はなくなってほしいという感想を持った児童がほとんどだった。

〈児童の感想〉

- ・ 戦争はこわい。もう二度と起きてほしくないです。
- ・ いのちは一つしかないから、ころしあいをしてはいけない。
- ・ 家族や友だちがいなくなるのはこわい。もう二度と起きてほしくない。



平和に関する指導（7月）

第6学年

題材 つるにのって

ねらい ○原爆（核兵器）の悲惨さ・残酷さを伝えるとともに、被爆の苦しみは何年も何十年も続くことを知る。

○戦争を憎み、核兵器廃絶の思いを高める。

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	準 備
1. 8月6日と9日の説明 2. ビデオ「つるにのって」を視聴する。 3. ビデオ「つるにのって」を観て、話し合う。 4. 現代の核兵器について知る。 5. 感想を書く	○8月6日と9日がどんな日なのか、思い出させる。 ○知っている事を出し合う。 ○ビデオを視聴させながら、キーワードになる言葉を板書していく。 ○ビデオを見て、分からないところを出させ、答えられることは、説明する。 ○登場人物のさだこの写真を見せ、実在した少女であることを説明する。 ○現代の核弾頭数などを補足説明し、核兵器廃絶のために「つるにのって」ができたことを紹介する。 ○自分達ができることも考えさせる。	・ビデオ ・さだこの写真
核弾頭数 —世界の8核保有国の作戦配備核兵器総数は2014年現在、最大1万6000発である。そのうち、各国の作戦配備核兵器（核弾頭）数は、〔米国〕7,300発〔ロシア〕8,000発〔イギリス〕225発〔フランス〕300発〔中国〕250発〔インド〕100発〔パキスタン〕100発〔イスラエル〕80発。数千発の核兵器が数分以内に発射できる厳戒態勢にある。		
6. 感想を発表する。		

（授業後の感想および成果と課題）

・戦争が二度と起こらないように、今私ができることをしていきたいです。平和が続いて争いのないような世界になってほしいです。
 ・戦争はこわいな、おそろしいなと思いました。さだこはとてもかわいそうだなと思いました。修学旅行はナガサキだけど、このようなことが起こったことを忘れずに平和祈念館を見学しようと思いました。
 ・戦争は世界中からなくなってほしいと思いました。戦争によって、小さい子などの命がなくなってしまい、生き残った人も放射能を浴びてしまったら病気になって多くの人の命がなくなるからです。

○「さだこ」が実在した少女である事におどろくとともに、12歳で亡くなったさだこを身近に感じる事ができ、あらためて何年もたってあられる放射能の恐ろしさを理解できたようだ。小倉には陸軍造兵廠があり、「軍都」と呼ばれるほどの町であったこと、だから原爆の投下目標であったことなども説明し、修学旅行で長崎を訪れる価値を考えていった。小倉に原爆が落とされていたら、生まれていない人もいるかもしれないということにも気づいていき、原爆が遠い町の話ではないことを感じてくれたようだ。



平和に関する学習授業実践



1. 題 材 「原子爆弾と小倉・広島・長崎」

2. ねらい

○修学旅行での平和学習に向けて、戦争と原子爆弾、平和についての関心を高める。

3. 資 料 NHK 番組の編集動画・当時の日本や三郎丸小学校の様子の写真・GT

学 習 活 動	指導上の留意点・児童の反応等
1. 「広島・長崎への原爆投下と小倉との関係」について知る。 ・動画の視聴	○ 原子爆弾が投下されるまでの経緯について、その詳細を知ること、広島・長崎に投下された原爆と小倉との深い関りについて知る。
2. 原子爆弾による被害について知る。 ・動画、写真の視聴	○ 言葉や状況等、補足をする。 ○ 原爆の威力の恐ろしさや、戦争後も被爆者を苦しめている現状を押さえる。
3. GT の話を聞く ・九州（大牟田）での戦時中の話を聞く	○ 戦時中の衣食住、空襲警報や防空壕への非難など、戦時中の日常生活について、実体験に基づいた話を聞く。
4. 質疑応答と感想を交流する。	

成果や課題

成果：GT に実体験を直接話していただくことで、より現実味を帯びた、戦時中の生活の様子や戦争の恐ろしさを、子どもたちが実感することができたように感じる。また、質疑ができることにより、子どもが関心を持っていることを知ることができた。

課題：修学旅行が遅い時期だったため、国語科の授業や学習参観等に向けて、総合学習として平和学習を深めていくことが難しかった。まだ、視聴覚教材は効果的ではあったが、自作の物だったので、今後の実践継続という点では反省を残した。

子どもの感想など

- 原子爆弾のことは知っていたけど、小倉の町が1番最初に狙われていたとは知らなかった。
- 小倉に落とされる予定だったことは聞いたことあったけど、ビデオを見て、本当にぎりぎりまで小倉に落とされることになっていたのと、天気で偶然落とされなかったのを知って怖くなった。
- 原子爆弾を二度と落とされたくないし、落としてもいけないと思うので、原子爆弾はなくさないといけないと思った。
- くまかわさん（GT）の話を聞いて、食べるものがいっぱいある今は幸せと思った。
 - ・目の前で人が死んだり、自分の家が燃えたりしているのを見たら、わたしは耐えられないと思う。
 - ・子どもなのに戦争を乗り越えたのはすごいと思う。

1. 題 材 「 母さんの歌 」 2. ねらい ○ 戦争によって、平和な日常が奪われてしまうことや戦争のおそろしさに気付き、今ある平和の大切さを感じ取ることができるようにする。 3. 資 料 道徳教材「母さんの歌」	
学 習 活 動	指導上の留意点・児童の反応等
1. 広島県の「原爆ドーム」の写真を見せ、戦争（原子爆弾）の悲惨さについて話し合う。 2. 道徳資料「母さんの歌」を読んで、登場人物の気持ちを考える。 ☆ 迷子になった坊やを見つけた女学生は、どんな気持ちや思いを抱いたのでしょうか。 ☆ 女学生は、どんな思いで坊やを抱き続けたのでしょうか。 3. 感想を交流し、ふり返りを行う。	- 戦争と平和について、自分の中のイメージを膨らませ、自分の事として真剣に考えるようにする。 - 子どもたちが、戦争について知っていることについて自由に話ができるようにする。 「坊やがかわいそう。」「とてもくるしそう。」「生きてほしい。」 「お母さんの代わりに守ってあげたい。」「安心して。」「少しでも幸せに生きて。」「周りには、私しかいないから…。」 「坊やに対する思い」「自分への思い」というように、多方面から気持ちを考えることができるようにする。 - 生命を大切にし、平和な世の中を作っていくために、自分たちができることを考えるようにする。

成果や課題・子どもの感想など

「三郎丸小学校に爆弾が落とされた日」や「沖縄慰霊の日」、「折る平和集会」など、節目ごとに絵本の読み聞かせを行ったり、平和に関するメッセージを書いたり、「戦争」や「平和」について考えるようにしてきた。これまでの積み重ねがあったからこそ、本題材で、周囲で苦しむ人々や、原子爆弾で焼けた町の様子を想像しながら、目の前で苦しむ坊やを助ける女学生の気持ちを考えることができた。

《子どもの感想》

- たくさんの命がなくなる戦争は、してはいけない。平和が続くために、くだらないことでけんかはしない。
- 世の中には、苦しんでいる人がたくさんいる。失敗したハガキを集めたり、募金をしたりして、そんな人たちを助けられるようになりたい。
- 世界中の人が「楽しい」と思える世の中にしたい。
- まだ幼いのに、戦争に巻き込まれて亡くなった人は、とてもかわいそう。みんな命、一つ一つを大切にしたい。
- 戦争は、国と国の「けんか」だから、そのけんかをなくしたい。
- 戦争の恐ろしさを知って、「戦争は絶対にしない」と思ってもらえる世の中になってほしい。

特別支援学校でのとくみ



平和教育指導案

小学部

題材名 「かよこ桜」		領域		配時	1
ね ら い	- 本校に「かよこ桜」が植えられたことを知る。 「かよこ桜」を大切に育てようという気持ちを持つことができる。				
学 習 活 動		指導上の留意点			
1、2年前、本校に1本の桜が植えられたことを知る。		写真を示して、この桜が、いつ植えられたか、どこに植えられたか知らせる。			
2、自作教材「かよこ桜」を見る。		- DVDによる教師の読み聞かせをする。 - 話の中に出てきた分からない言葉等について簡単に説明する。(絵を用意) 戦争 爆弾			
3、「かよこ桜」の由来を考える。		- 爆弾が落とされて、かよこが死んでしまったお母さんの心情を想像させる。 お母さんの顔の絵から考えさせるようにする。 - お母さんが桜を植えようと思ったわけを考えさせる。			
4、「かよこ桜」の話の感想を発表する。		- 自分の言葉で、思ったことを表現するようにする。 - カードを用意し、自分の考えに近いものを選択させるようにする。			
5、本校の「かよこ桜」を見に行く。 「かよこ桜」の前で、歌を歌う。		- 自分の目で「かよこ桜」を見たり触ったりして、「かよこ桜」を大きく育てようという気持ちを持つようにさせる。 - 平和に関する歌を歌い、平和を守る大切さを感じるようにさせる。			



平和教育指導案

中学部

題材名 「かよこ桜」		領域	配時	1
ね ら い	- 本校に植えられた「かよこ桜」の由来を知る。 - 北九州市には、「かよこ桜」がたくさん植えられていることを知る。			
学 習 活 動		指導上の留意点		
1、2年前、本校に1本の桜が植えられたことを知る。 2、自作教材「かよこ桜」を見る。 3、「かよこ桜」の由来を考える。 4、北九州市には、「かよこ桜」が、いろいろな場所に植えられていることを知る。 5、「かよこ桜」のことを知って、思ったことをまとめる。 6、本校の「かよこ桜」を見に行く。 「かよこ桜」の前で、歌を歌う。		- 写真を示して、この桜が、いつ植えられたか、どこに植えられたか知らせる。 - どうして植えられたのか予想させる。 - DVDによる教師の読み聞かせをする。 - 話の中に出てきた分からない言葉等について簡単に説明する。(地図や写真、絵を用意) - 長崎の位置 - 戦争 - 爆弾 - 防空頭巾 - バラックの家 - 戦争によって子どもを奪われたお母さんの心情を想像させる。 - お母さんが桜を植えようと思ったわけを考えさせる。 - 北九州市の地図の中に、桜が植えられている所に印をつけて、たくさんの場所に植えられていることに気付くようにさせる。 - 北九州市が、「かよこ桜」を広げた訳を簡単に知らせる。 - 自分の言葉で、思ったことを表現するようにする。 - 自分の目で「かよこ桜」を見たり触ったり、平和に関する歌を歌ったりして、「かよこ桜」を大切に育て、平和を守ろうとする気持ちを持つようにさせる。		



平和教育指導案

高等部

題材名 「かよこ桜」		領域	配時	1
ね ら い	- 本校に植えられた「かよこ桜」の由来を知る。 - ヒロシマ・ナガサキに落とされた原子爆弾について知る。			
学 習 活 動		指導上の留意点		
1、2年前、本校に1本の桜が植えられたことを知る。 2、自作教材「かよこ桜」を見る。 3、「かよこ桜」の由来を考える。 4、話の中に出てきた「大きな爆弾」について知る。 5、「かよこ桜」のことを知って、思ったことをまとめる。 6、本校の「かよこ桜」を見に行く。		- 写真を示して、この桜が、いつ植えられたか、どこに植えられたか知らせる。 - どうして植えられたのか予想させる。 - DVDによる教師の読み聞かせをする。 - 話の中に出てきた分からない言葉等について簡単に説明する。(地図や写真、絵を用意) - 長崎の位置 - 戦争 - 爆弾 - 防空頭巾 - バラックの家 - 戦争によって子どもを奪われたお母さんの心情を想像させる。 - お母さんが桜を植えようと思ったわけを考えさせる。 - 原子爆弾について説明する。 - 大きな爆弾＝原子爆弾 1945年8月9日長崎に落とされた。 - 本当は、北九州に落とす予定だった。 - 北九州市が「かよこ桜」を植えた訳。 - 自分の言葉で、思ったことを表現するようにする。 - 自分の目で「かよこ桜」を見たり触ったり平和をテーマにした歌を歌ったりして、平和を守る大切さを感じるようにさせる。		

「嘉代子桜」補足資料

〈平和の取り組み〉

北九州市では、平和な世界の実現のために、市が市民の皆様とともに、前進していく決意を示すとともに、平和に対する理念を示す「北九州市非核平和都市宣言」を平成 22 年に実施しました。この非核平和都市宣言を契機に、これまでも様々な平和に向けた取り組みを進めてきました。

しかし、戦後 70 年余りが経過し、戦時下の暮らしや市民の苦労など、当時の様子を知っている方々が少なくなり、悲慘な戦争の記憶が風化していくことが懸念されています。

そのため、戦争の記憶を次世代に伝えとともに、改めて、市民の皆さんと命と平和の大切さを考えるきっかけに繋がる取り組みを進めていきます。

北九州市は、市民の皆さんに戦争の悲慘さ、平和の尊さを伝えていくため、「嘉代子桜・親子桜」の植樹を進めています。

〈「嘉代子桜・親子桜」について〉

今から 70 年前の昭和 20 年 8 月 9 日、長崎市に原爆が投下され、一瞬にして、町は壊滅的な被害を受け、数万人の方が亡くなりました。

原爆投下時、林嘉代子さん（当時 15 歳。長崎県立高等女学校 4 年生）は、爆心地から 500 メートルほどしかはなれていない城山小学校（当時の城山国民学校）で学徒報国隊員の一人として働いており、他の多くの女学生とともに亡くなりました。

戦後、嘉代子さんの母親の津恵さんは、娘と一緒に亡くなった女学生の慰霊と平和への願いを込めて同小学校に桜の苗木を植えました。その桜は「嘉代子桜」と名付けられ、今は、大木となり、毎春桜の花を咲かせています（植樹された 50 本のうち、現在 6 本が残っています）。

長崎市に投下された原爆は、当初、旧小倉市にあった小倉陸軍造兵廠（現在の小倉北区にあった兵器工場）を目標としていました。しかし、当日の上空が視界不良であったため、第二目標の長崎市に変更され、原爆が投下されたのです。

このことを顧み、北九州市は、平和への願いが込められた「嘉代子桜」に由来する桜を「嘉代子桜・親子桜」と名付け、広く北九州市内に植樹を行い、市民の皆さんに原爆や戦争の悲慘さ、平和の尊さを伝えていくこととしました。

※「嘉代子桜」にまつわるお話は、書籍「かよこ桜」に詳しく掲載されています。同書籍は、市立図書館等にも所蔵していますので、ご覧ください。

※本市は、「かよこ桜・親子桜を広める会」（「嘉代子桜」に込められた平和の願いを全国へ広める活動を行っている長崎の市民団体）から、桜の苗木を提供していただき、植樹を行っています。

＜資料＞ 北九州市のホームページより

平和学習の取り組み

1. 題 材 天気予報がなくなった日

2. ねらい ○日本が戦争をはじめた時、天気予報という情報が国民にも「秘密」にされたことを知る。
○原爆（核兵器）の悲惨さ・残酷さを伝えるとともに、被爆の苦しみは何年も何十年も続くことを知る。

3. 資 料 DVD；ニュースCUBE の戦争特番

学 習 活 動	指導上の留意点・児童の反応等
1. 8月6日と9日の説明 2. ビデオ「天気予報がなくなった日」を視聴する。 3. ビデオ「天気予報がなくなった日」について話し合う。 4. 現代の核兵器について知る。 5. 感想を書く	○8月6日と9日がどんな日なのか、思い出させる。日本がどうして戦争をはじめたのか、太平洋戦争までの歴史を簡単に説明する。 ○知っている事を出し合う。 ○ビデオを視聴させながら、キーワードになる言葉を板書していく。 ○【国語「天気を予想する」の学習も参考に】 ○天気予報を知らされずに台風によってたくさんの人々が亡くなったことから、戦争中は「国民の命」よりも「戦争に勝つ」ことが優先されるおかしさに気づかせる。 ○現代の核弾頭数などを補足説明する。 ○反戦の取り組みについて自分達ができることを考えさせる。
核弾頭数—世界の8核保有国の作戦配備核兵器総数は2014年現在、最大1万6000発である。そのうち、各国の作戦配備核兵器（核弾頭）数は、〔米国〕7,300発〔ロシア〕8,000発〔イギリス〕225発〔フランス〕300発〔中国〕250発〔インド〕100発〔パキスタン〕100発〔イスラエル〕80発。数千発の核兵器が数分以内に発射できる厳戒態勢にある。	

成果や課題・子どもの感想など

○子どもたちはまず、戦争によって天気予報がなくなった事実には驚き、台風の情報を知らされずにたくさんの方が亡くなったことに対して怒りを感じ、「国民の命」が後回しにされる戦争のおかしさにも気づいていった。「天気予報」という子どもにとって身近な視点での平和学習になった。ニュースキャスターの「天気予報がある国は平和な国」であるという言葉をもとめとした。

1. 題 材 「おかあちゃんごめんね」 2. ねらい 平和な日常が戦争によって奪われてしまうという、戦争のおそろしさと、平和の大切さを感じ取るようにする。 3. 資 料 DVD「おかあちゃんごめんね」	
学 習 活 動	指導上の留意点・児童の反応等
1、 「平和」と「戦争」という言葉から、想像することを話し合う。 2、 戦争について知っていることを発表する。 ・三郎丸小学校に、爆弾が落ちたこと。 3、 太平洋戦争と沖縄戦について知る。 4、 「おかあちゃんごめんね」を視聴する。 5、 自分の考えを書き、発表する。	- 戦争と平和について、自分の中のイメージを膨らませ、自分の事として真剣に考えるようにする。 - 空襲は、身近に起きていたことを知らせ、戦争は、今後いつどこで起きてもおかしくないということを感じ取らせる。 - 世界地図を提示し、70年以上前日本が世界の国々と戦争をしていたことを知らせる。 - 沖縄で、日本唯一の地上戦が行われ、たくさんの住民の命が奪われたこと、小倉に原爆が落とされていたかもしれなかったことを知らせる。 - 戦争の悲惨さ、人々の苦しみ、自分を犠牲にしてまで、子どもを助けた母のおもいに気付く。 - 生命を大切に、平和な世の中を作っていくために、自分たちができることを考えさせる。

成果や課題・子どもの感想など

空襲を受け戦火の中を逃げる状況を見て、戦争の悲惨さを感じ、その時代に生きた人々の苦しみについて考えている感想が多かった。また、戦争のない平和な世の中を作っていくために自分ができることについて書いている子どもも複数名いた。

- ・ どうして戦争をするのだろう。
- ・ こんなに恐ろしいのに、きぬちゃんは元気に生きていてすごい。
- ・ この世から戦争がなくなってほしい。
- ・ だれが何のために、戦争をしだしたのかわからない。
- ・ 平和な世の中を作っていくために、自分はいじめを絶対にしない。



平和学習のとりくみ

1. 題 材 「8・8八幡大空襲」
2. ねらい ○八幡大空襲の学習を通して、自分たちの町でも昔戦争があり、たくさん
の人が亡くなったことを知り、戦争の悲惨さと共に平和の大切さを心に
刻ませる。
3. 資 料 写真資料①② DVD「北九州～戦争の記憶～私たちへの伝言」
(※低学年は、紙芝居「八文字焼に思いをこめて」の読み聞かせ)
(※別の時間に「ボクとガクーあの夏のもものがたりー」を視聴させる)

学 習 活 動	指導上の留意点・補足説明等
1. 「戦争」について知っていることを話し合う。 2. 「8・8八幡大空襲」について知る。 資料①小伊藤山公園の平和の母子像と慰霊塔の写真 ②あるお墓の写真（8月8日に小伊藤山の防空壕で亡くなった。子どもからお年寄りまで亡くなっている。） 3. DVD「北九州～戦争の記憶～私たちへの伝言」を視聴する。 (※低学年は、紙芝居「八文字焼に思いをこめて」の読み聞かせ) 4. 八幡大空襲や戦争についてについて考えたことを書き、感想を話し合う。 5. 現代の戦争について考える。	・事前に子どもたちが戦争に関する本を自由に目にする ことができるようにしておく。 ・戦争と平和について、自分の中のイメージを膨らま せ、自分の事として真剣に考えるようにする。 ・①二枚の写真を見せ、「どこにあるのか」「なぜつくられ たのか」考えさせる。 ・②「あるお墓の写真」を見せ、8月8日にお母さんと子 どもたちが亡くなっていることに気付かせる。 ・1945年8月8日、八幡に大空襲があり、小伊藤山公 園にあった大きな防空壕でたくさんの方が亡くなった ことを知らせる。 ・八幡大空襲の被害の様子や大きさについて知らせる。 ・八幡大空襲の1年前、1944年6月15日の深夜から 16日未明にかけて日本で初めてB29による空襲があ り、北九州の各地に爆弾が落とされたくさんの方が亡く なった。北九州が標的にされたのは「小倉陸軍造兵廠」 と「八幡製鉄所」があったからであることを知らせる。 ・小倉は「軍都」と呼ばれアメリカの原爆の第2目標であ り、8月6日ヒロシマが曇っていたら、小倉に原爆を落 とされていた可能性もあることを知らせる。 ・そのような悲惨な戦争が現代でも起こっていることを 話し合う。 ・生命を大切に、平和な世の中を作っていくために、自 分たちができることを考えさせる。

平和学習「8・8 八幡大空襲」写真資料

平和を願う復興平和祈念像



焼けてしまった小伊藤山ふきん



小伊藤山公園の慰霊塔



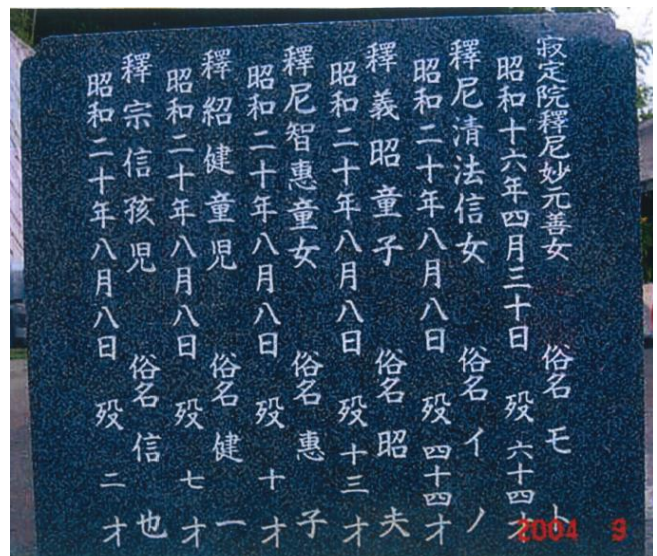
防空壕があった小伊藤山



焼けてしまった八幡のまち



昭和20年8月8日に小伊藤山の防空壕で亡くなった子どもたちとお母さん

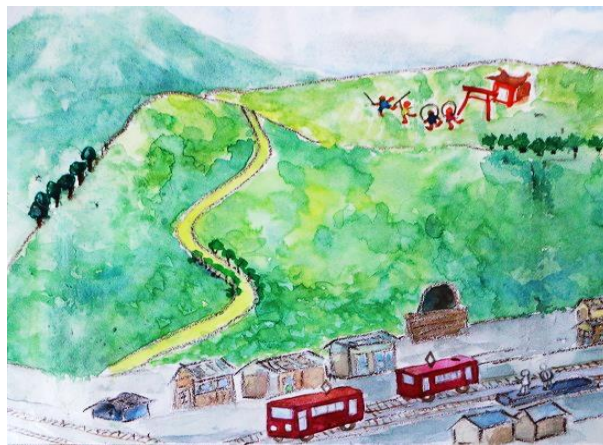


紙芝居「ハ文字焼きに思いを込めて」―八幡大空襲を語り継ぐ―ができました。

2017年度「8・6平和のつどい」で上演した平和劇を紙芝居にしました。平和授業に活用していただけると幸いです。紙芝居の内容を簡単に紹介します。



当時の小伊藤山の様子



西の方から戦闘機と B29 が空全体に広がってきた



戦闘機が機銃掃射で動いているものを狙い撃ち

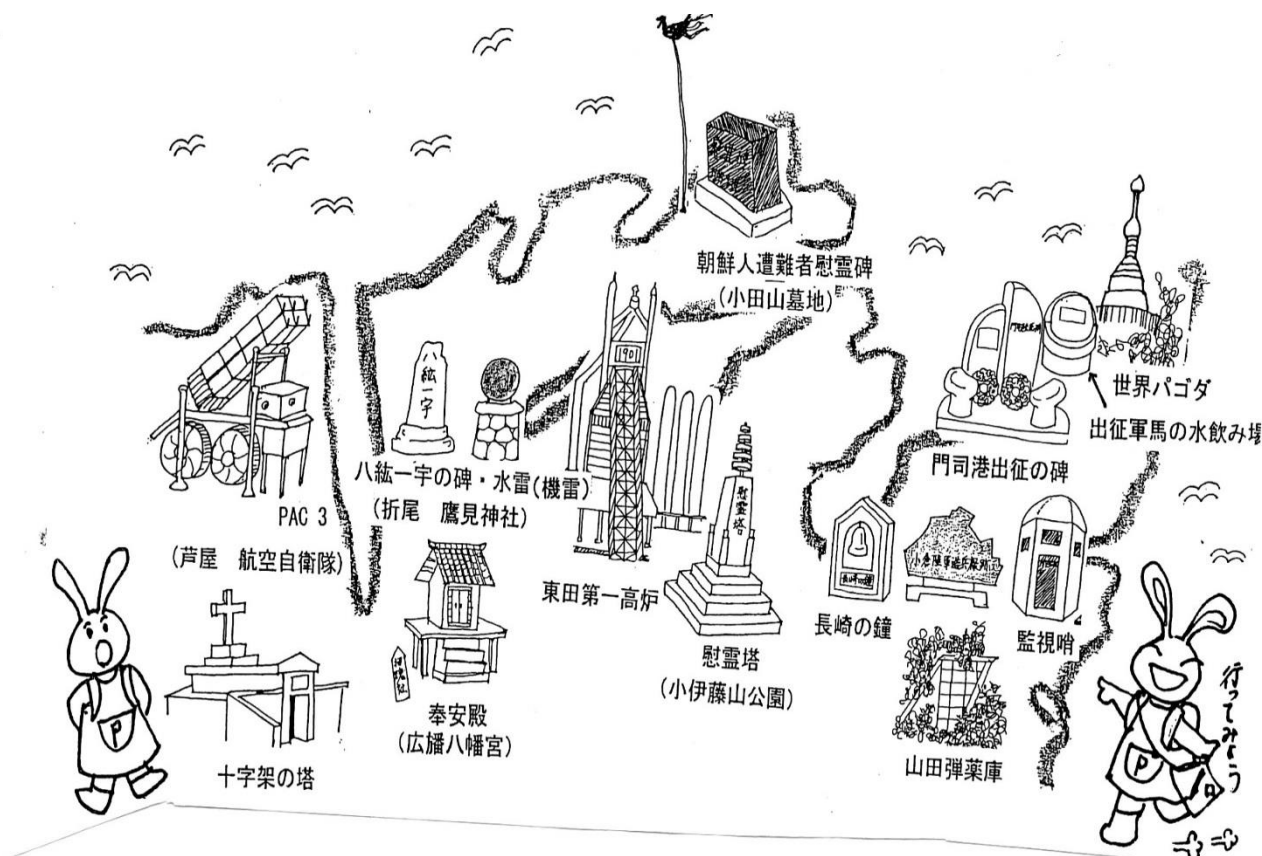


戦争中、八幡の製鐵所は兵器の材料とする鉄を生産していたため、3回もアメリカ軍による空襲を受けました。特に悲惨を極めたのが3回目の空襲、1945年8月8日の八幡市街地を狙った無差別焼夷弾攻撃でした。

黒崎、鳴水、陣山、前田、尾倉、平野、春の町、中央町などが焼き尽くされ、死傷者2500人以上、焼失した建物は14000戸とされています。

戦後70年以上が経った今、憲法9条を変えて、日本をまた「戦争のできる国」にする動きがあります。私たちは、主人公・一男少年が味わった戦争の悲しみや苦しみを、今の若い人たちに味わわせないために、憲法改悪の動きに関心を持ち、平和憲法を守っていかねばなりません。この紙芝居を通して、戦争や平和について考えていただければ幸いです。

北九州の戦跡



かつて、「軍都小倉」といわれたように、北九州小倉には西日本最大の兵器工場「小倉陸軍造兵廠」がありました。このため、小倉は、原爆の投下目標に二度もなりました。

その造兵廠で兵器をつくるための鉄鋼を生産していたのが、八幡の製鐵所でした。そのため、八幡の町も多くの空襲を受けたくさんの人々がなくなりました。

また、門司は戦地に行く兵士が出港していく港でした。

そして北九州には、朝鮮半島から強制連行ややむをえない事情で日本に来て過酷な労働に携わった多くの人々もいました。

戦争が終わった後、朝鮮半島に帰ろうとして若松沖で遭難し帰れなかった人々もいます。

このように、北九州は戦争と深いかわりをもった街でした。

今も北九州の多くの場所で、戦争の傷跡を伝える戦跡がまだ残っています。この夏、一つでも訪ねて、当時のことや戦禍に苦しんだ人々の想いに触れてみることも、意義あることではないでしょうか。



現在は、市庁舎・新勝山公園・ソレイユホール・ムーブなどが立っているところが、兵器工場（造兵廠）だった。

小倉は中国大陆に近いことから、明治になると、政府によって陸軍の連隊が置かれました。日清・日露・第1次世界大戦で、大陸侵略のための兵站・前進基地となり、「軍都小倉」と呼ばれるようになりました。関東大震災（1923年）で壊滅した東京の陸軍造兵廠東京兵器工廠（兵器生産所）が1933年に小倉に移転してきました。

1940年、陸軍兵器本部直属の小倉陸軍造兵廠として規模を拡大しました。従業員は、約4万人。敷地は、現在の市庁舎、新勝山公園、中央図書館、北九州ソレイユホール、住宅公団、公営住宅などがすっぽり入るほどの広さ（17万坪、ヤフオクドーム8つ分）で、最新の工作機械を備えた西日本一の兵器工場でした。

この造兵廠では、戦車や航空機関砲、高射機関砲、砲弾、重機関銃、軽機関銃、小銃などを造っていました。

男子学徒はもちろん、女子学徒も兵器の製造に携わりました。戦争末期には風船爆弾も造られていました。風船爆弾の気球製造には、県内外からの2850名の女子挺身隊と主に高等女学校からの動員学徒が携わり、1025個の風船爆弾を生産しました。

小倉が原子爆弾の投下目標にされたのもそれら兵器工場のせいだったのです。



当時の造兵廠正門前の様子（今の中央図書館前）

小倉造兵廠で兵器をつくる学徒動員の女学生

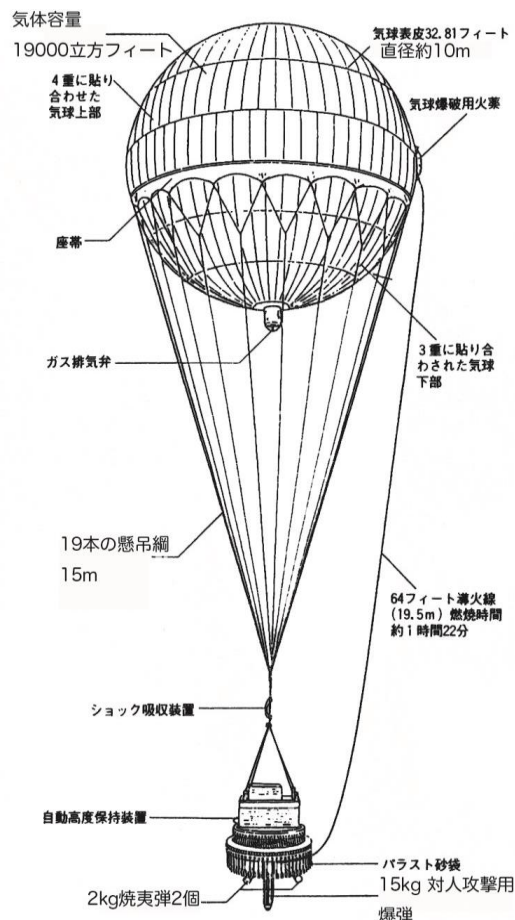


風船爆弾は、和紙とコンニャク糊で作られた気球に爆弾を付け、大気圏層のジェット気流に乗せ、アメリカを攻撃しようとした兵器です。当時は「ふ号兵器」と呼ばれ、秘密にされていました。

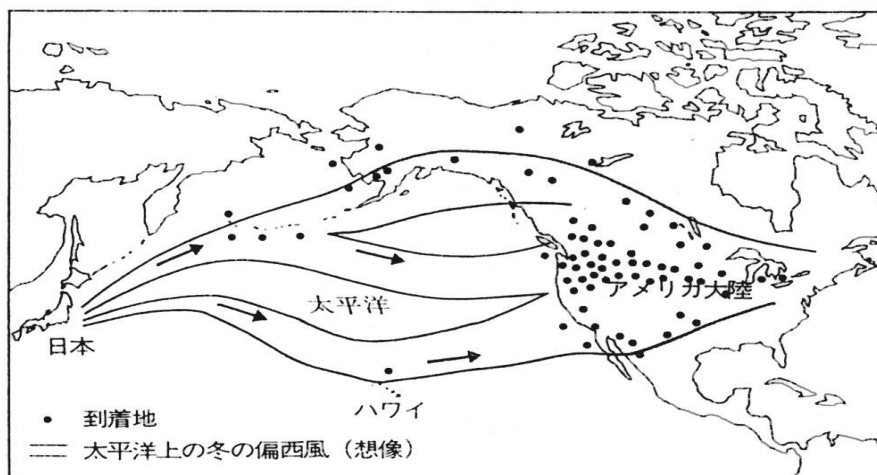
満州事変後1933年頃から研究され、全国での生産個数約1万発、うち約9300個が放球され、その1割の約1000個がアメリカ大陸に到着したと言われています。

アメリカ側の人的被害は1件と言われています。1945年5月5日、オレゴン州でピクニック中の牧師一家6名が犠牲になりました。子どもが落下していた装置を触ったとき突然爆発したのです。この事件は「オレゴンの悲劇」と呼ばれ、戦後慰霊碑が建てられました。

小倉造兵廠で使った原紙作りには、福岡県八女の製紙技術が使われ、1300個を生産しました。



資料：Robert C. Mikesh, Japan's World II Balloon Bomb Attacks on North America (Washington, D.C. Smithsonian Institution Press)



アメリカに到達するまでの予想図

にほんせいてつ やはたせいてつしよ
日本製鐵（八幡製鐵所）

1934年から1950年の間、八幡製鐵所などは国策会社「日本製鐵」として戦時体制に対応していきました。

明治維新後、近代化の遅れていた日本は、「富国強兵」「殖産興業」を合言葉に、欧米列強に負けない強い国作りを目指しました。ところが鉄をつくる本格的な製鐵所は我が国には無く、必要な鉄のほとんどを輸入に頼っていたのです。

1894年（明治27年）、日本政府は中国侵略を企て、日清戦争を起こします。この戦争で得た中国からの多額の賠償金を基に官営製鐵所を建設しました。産炭地を背景に控えた遠賀郡八幡村に、1901年東田第1高炉を完成させたのです。

太平洋戦争中は軍需会社として、生産する鉄鋼の多くを、軍需用（54%）、船舶用（31%）として生産し、民需用（建設・機械・鉄道）は鉄鋼生産のわずか15%でした。海軍出身の社長のもと、陸海軍の要請に応じて特殊軍需製造設備を建設し、弾丸鋼材、航空機用鋼材、防弾鋼材（戦車、航空機用）、その他軍需用特殊鋼材などの多くを生産していました。小倉陸軍造兵廠で造られた戦車や機関砲、砲弾の原料を供給していたのです。

鉄鋼生産の中心であったため、アメリカ軍の爆撃目標となり、何度も爆撃に会いました。戦時中は従業員が兵役に取られ、労働者不足となり、学生や朝鮮人がたくさん動員され、製鐵所での過酷な労働を強いられました。



こいとうやま
小伊藤山公園（八幡大空襲）

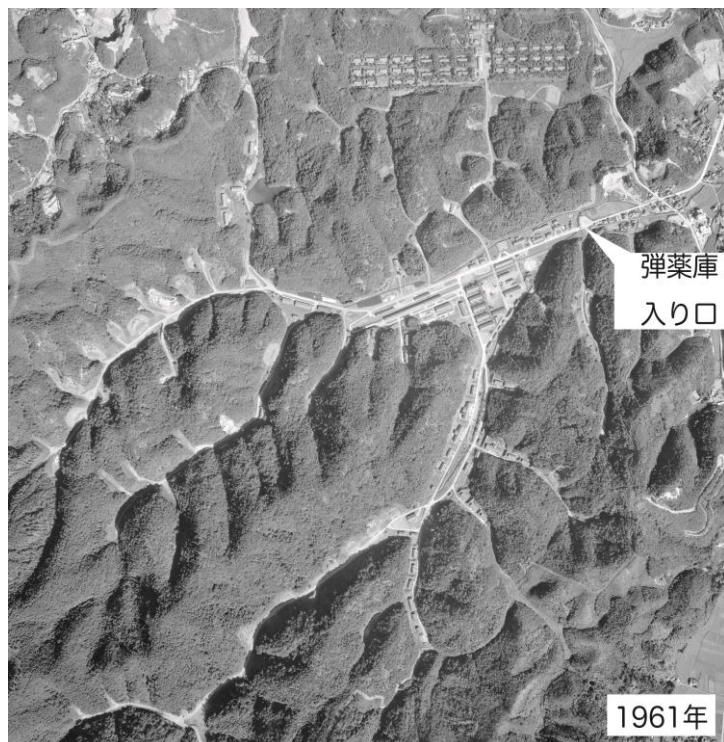
小伊藤山は、高さ50メートルの小高い山でした。戦時中その内部に、旧電車通りから皿倉山に向かって大きな防空壕が掘られ、それに直結するように周囲から各町内が、それぞれ防空壕を掘っていました。

1945年8月8日の大空襲で、壕に直結していた印刷所が燃え、その火が壕内に貯蔵していた油に引火し、一気に火が走り、避難していた人々の多くが窒息死しました。小伊藤山防空壕の死者数は、300人とも700人ともいわれています。



小伊藤山公園の慰霊塔

やまだんやくこ
山田弾薬庫



＜山田弾薬庫のあゆみ＞

- 1940 日本陸軍弾薬庫建設
- 1941 太平洋戦争はじまる
- 1945 敗戦、米軍が接收
- 1950 朝鮮戦争はじまる
- 1965 ベトナム戦争（～ 75）
- 1972 米軍より日本に返還
- 1979 北九州市議会「山田の三分割」
を決議する。大蔵省、防衛庁、
北九州市で三分の一ずつ所有
- 1996 北九州市分の一部が山田緑地
として公開される。緑地内の
人工池で奇形ガエルが多数発
見される

「山田緑地」というと、北九州市民のいこいの場として知られていますが、今から71年ほど前の戦争当時は、東洋一といわれた小倉造兵廠の弾薬庫がつくられていました。

1933年、そこで静かに暮らしていた人々は、わずかなお金と引き換えに「強制移住」させられ、数百棟以上の兵舎や弾薬庫が造られました。

ここは「山田弾薬庫」といわれ、弾薬を運び込むための線路も引かれていました。線路の跡はほとんど残っていませんが、今でも自然観察路の脇には、何か所もの弾薬庫跡を見ることができます。

戦後はアメリカ軍に接收され、ベトナム戦争ではこの弾薬庫から弾薬が運び出されました。

1972年、アメリカから日本に返還され、1996年には「山田緑地」として公開されました。しかしその直後、人工池で奇形ガエルが多数見つかりました。市の調査の結果、土壌からT.N.T等が検出され、弾薬との関係を指摘する声もあります。

北九州空襲について

太平洋戦末期、米軍が開発し日本の攻撃に投入した爆撃機「B-29」。この爆撃機が投下した爆弾や焼夷弾が日本中の都市を焼け野原にしたのです。この「B-29」が初めて日本本土に飛来してきたのは1944年6月16日。福岡県北九州の上空でした。当時最大の製鉄施設を持つ八幡製鉄所が標的でしたが、大きな被害が出たのは当時の小倉市にあった兵器工場「小倉陸軍造兵廠（ぞうへいしょう）」でした。勤労働員されていた10代を中心とする若者約80人の命が一発の爆弾で奪われたのです。

その後、終戦間際の1945年8月8日、再び「B-29」が北九州・八幡を襲いました。大量の焼夷弾を今度は無差別に住宅街に投下し、2,500人を超す死傷者が出ました。街の中心にあった防空壕では避難していた300人もの人々が窒息死しました。一回の空襲の犠牲者としては、九州では長崎の原爆に次いで大きいものでした。（制作：Yahoo!ニュース）

《三郎丸小学校のとりくみ》

三郎丸に爆弾が落とされた日

2018. 6. 18(月)14:10~20

（全校放送…〇〇） 三郎丸小学校のみなさん、チャレンジタイムの時間ですが、今日は全校一斉に「平和の学習」をします。テレビのチャンネルをアナログ1チャンネルにしてください。

みなさんは、プール横の門のところにある、木の下に小さな石碑があるのを知っていますか。今日は、この石碑について「心・にこにこ委員会」のお兄さんやお姉さんがお話をするので、静かに聞いてください。

（子どもの語り…委員会の子どもたちが各クラスで「三郎丸に爆弾が落とされた日」の話をします。）

今から70年くらい前、日本は大きな戦争をしていました。その戦争を太平洋戦争といいます。日本の上空にも、爆弾を積んだアメリカの飛行機が現れるようになりました。

そのころ、今の三郎丸小学校は、園芸学校としてたくさんの学生や先生が学んでいました。空からのこうげきに備え、運動場には一人の人間が、なんとか身を隠すことができるくらいの深さの、防空壕という穴が、迷路のようにたくさん掘ってあったそうです。

1944年6月16日の夜中、午前0時50分ごろ、北九州の空にたくさんの爆弾を積んだB-29という飛行機が飛んできて、爆弾を落としました。アメリカ軍の目標は、八幡製鉄所でしたが、北九州の色々なところへ爆弾を落としていきました。空襲警報が鳴り始め、三郎丸小学校の近所に住む人たちや園芸学校の学生も、空襲から身を守るために運動場に掘っていた防空壕の中に避難しました。

ちょうどみんなが避難し終わった時、一発の爆弾が今のプールのところに落ちたそうです。爆発の勢いで大量の土が飛び散り、防空壕に避難していた人々が生き埋めになってしまいました。

この一発の爆弾で、防空壕の中に避難していた大人や子ども20数名の人が亡くなりました。爆弾が落ちた瞬間、体育館の屋根が吹き飛び、近所にあった石臼がとばされて屋根の上に上がったということです。どんなにすさまじい爆発だったかわかります。

この、「悲しい出来事を忘れないように」「2度と戦争が起きないように」という願いを込めて、園芸学校の人たちが石碑を建てたということです。それが、門のそばの木の下にある石碑です。ぜひ、みなさんもプール側の門を通るとき、石碑を見て、今日のお話を思い出してください。

これで、「三郎丸に爆弾が落とされた日」の話をおわります。

被爆殉難の地

昭和十九年六月十六日、福岡県小倉園芸学校教諭、江藤正人先生、阿部隆昌、池上勲両君と地域住民二十数名が、この地において、爆死しました。

戦後三十有余年、この悲惨な事実をここに記し、爆死者の冥福を祈ります。 昭和五十一年十一月二十二日 福岡県小倉園芸学校

1. 目的

- ・ヒロシマの被爆の実態を学習することで、核兵器及び戦争のもつ非人間性や残虐性に気づかせる。
- ・「北九州市非核平和都市宣言」を紹介するなかで、平和を単に「戦争のない状態」として理解するのではなく、私たちの生活と世界の平和の問題はかかわりがあり、自分たちも平和を担う人類のひとりであることを認識させる。

2. 日時 7月14日（木）

3校時 10:50～11:40 パワーポイントとビデオ視聴 体育館

『ヒロシマに一番電車が走った』

4校時 11:50～12:40 学活（感想を書く） 教室

3. 内容 3校時 パワーポイント

広島原爆投下についての概略説明

北九州市の非核平和都市宣言の紹介

ビデオ 戦時中に人手不足から路面電車の車掌だった15歳の少女、春川弥生。

原爆で母も友達も失いぼう然とする弥生に、都市の復興の証のように、復旧した電車に乗務する話がある。

行方不明になった家族を必死に探す姿や死と絶望の中で生き抜いた「ヒロシマの家族」の姿を浮き彫りにして描くアニメ。（30分）

4校時 感想文 プリントA4サイズ1枚（担当が準備します）

平和に関する学習指導（案）

平成●年6月●日 人権教育

1. 目的

- ・平成22年、本市は「北九州市非核平和都市宣言」を行い、教育委員会において7月を「全市一斉の平和に関する学習指導月間」と規定し、各学校において平和に関する指導のより一層の充実を求めていることに鑑み、生徒の発達段階に即した指導を行うことで、平和を守り築いていく力の基礎を養う。
- ・ヒロシマやナガサキの被爆の実態や日本に原爆が投下されるまでの過程を具体的事象を通して学習することで、核兵器及び戦争のもつ非人間性や残虐性に気づかせる。
- ・平和を単に「戦争のない状態」として理解するのではなく、現在世界で起きている戦争や対立の問題を知ること、私たちの生活と世界の平和の問題がかかわりがあり、自分たちも平和を担う人類のひとりであることを認識させる。

2. 日時 7月14日（木） （午後は保護者会が予定されています）

3. 内容 ・学年ごとに「平和に関する学習指導」を実施し、その後教室で感想を書く。

1年生 2校時 9:50～10:40 DVD視聴『 』大ホール

3校時 10:50～11:40 学活（感想を書く）

2年生 3校時 10:50～11:40 DVD視聴『 』大ホール

4校時 11:50～12:40 学活（感想を書く）

3年生 3校時 10:50～11:40 DVD視聴『 』体育館

4校時 11:50～12:40 学活（感想を書く）

4. 会場： 3年～体育館 1. 2年～大ホール

20●●年7月●日 ●●中学校

生徒配布の資料プリント

平和について考えよう！

ビデオ内容

NHK 「広島に一番電車が走った」

NHK 広島放送局が募集した被爆体験記に寄せられた300通の手記をもとに制作され、1993年NHKスペシャルで放送されたアニメーションです。

戦場に召集された男たちにかわり、広島の路面電車は十代の少女たちが動かしていた。

15歳の春川弥生は朝の車掌業務に就く時に原爆により被爆、母や多くの友人を失う。死の街ヒロシマで絶望にくれる。8月6日からわずか3日後、廃墟の街ヒロシマを春川弥生が車掌を務める路面電車が警笛を高らかに鳴らし、走り始めた。



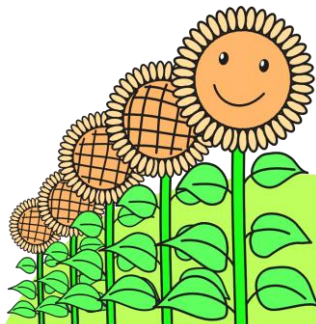
北九州市非核平和都市宣言

平和な世界の実現は、人類共通の願いです。

私たちの国、日本は、世界で唯一の核兵器の被爆国として、この地球上で再び広島や長崎の惨禍を繰り返してはならないことを、世界の人々に強く訴え続けてきました。

私たち北九州市民は、長崎に投下された核兵器の第一目標が小倉であったことを重く受け止め、核兵器の恐ろしさ、戦争の悲惨さ、平和の尊さを、次の世代に伝え、核兵器のない、戦争のない、平和な世界を築いていかなければなりません。

よって、私たちは、命と平和の大切さを深く認識し、核兵器の廃絶と平和な世界の実現のために歩み続けることを誓い、ここに北九州市を非核平和都市とすることを宣言します。



平成22年2月10日北九州市

学年便りの一部です。戦争が始まる時によく指導者の言う「正義」とは何か？を考えるもの。
「アンパンマン」の著作権があるので、学校でのみ使用すること。



アンパンマンの作者

やなせたかしさんって知ってる？

ここに、マンガ「アンパンマン」の作者やなせたかしさんの文章を載せました。
読んでみて下さい。

やなせさんは、1919年生まれの92歳。弟は第二次世界大戦で特攻隊となり戦死、やなせさん自身も第二次世界大戦に兵隊として招集されました。また、彼は、アンパンマンの作者だけでなく数々の絵本や雑誌編集、作詞、作曲、舞台美術、放送作家、歌手など多岐にわたる活動を行い、どの分野においても「やなせワールド」を創っています。

「アンパンマン」誕生に対するやなせたかしさんの思い

やなせさんは言います。「人間は一生を1回しか生きられません。つまり片道切符であるその命はとても大切です。それならばなるべく面白く楽しく生きていかなければもったいない。人間にとって一番面白くて嬉しいことは人を喜ばせることです。皆がお互いに助け合って生きていくのが我々の社会だと思います。」

アンパンマンについて彼は、「アンパンマンは、大人向けにかいた話です。私は戦争に反対です。〇〇マンなどのヒーローは世界中にたくさんいて、皆、悪いやつをやっつけて正義が勝つというものです。でも、本当の正義とは何だろうか。例えば戦争でも、『正義のために』戦うというが、ある国の正義と別の国の正義とはちがいます。爆弾を撃ちこんだ結果、『悪いやつ』だけじゃなく、子どもや一般の人も死んでしまうのに、勝った側の国の正義が『正義』となってしまいます。実際に悪いのは戦争そのものであるのにです。

テレビに出てくる〇〇マンなどのヒーローは、悪いやつや怪獣とは闘うけれど、ひもじい思いやつらい思いをしている人々を救うことはない。ひもじくて死にそうになっている人、つらい思いをしている人に一切れのパンをあげるこそ、真の正義だと思うんです。大きなことはできなくても、飢えている人が死なないように助けることが本当に正しいことだと考え、アンパンマンを作りました。」

また、バイキンマンについて彼は、「我々はいろいろな菌の中で暮らしています。

菌は悪いこともするけれど、いいこともするんです。パンも酵母菌の力がなければ作れません。菌の中で暮らしていると病気にもなります。薬を飲んでばい菌と戦うこともあります。我々は、いろいろな病気を経験しながら育っていきます。人間は、ばい菌と絶えず戦って、それにより抵抗力がついて、強くなっていく訳です。その意味で、アンパンマンを強く、大きく成長させていくためにも、バイキンマン（ばい菌）との戦いは永遠に続くのです。」と。

やなせさんの文章を読んだ後に、アンパンマンを見てみると「今まで、見えてなかったものが、見えてくる」のではないのでしょうか。素敵な「やなせワールド」にまた触れてみたくなります。



1948年（昭和23年）12月10日に国際連合で成立した世界人権宣言を記念して、毎年12月10日は、世界人権デーとして世界各国で人権を大切にするための様々な取り組みが企画されています。北九州市でも、この時期に人権講演会などの催しがあります。

さて、守るべき「人権」を一番侵害するものは何かと問われると、それはとりもなおさず「戦争」という答えがでます。戦争ほど、ひどい人権侵害はないのです。今月の6日・9日に各クラスで「平和を守ることの大切さ」「戦争の非人間性、残虐性」について学びます。戦争を止められるのも人間、平和を守ることができるのも人間…授業を通して、私たちが今から何をすればいいのかを感じてくれたらと考えています。

さとうきび畑の唄

名曲「さとうきび畑」をモチーフにしたTBSのドラマです。（平成15年度文化庁芸術祭大賞受賞）

現在、明石家さんまは、お笑いトーク番組のMCを務めるなど、テレビ界で活躍しています。そんな彼は、数年に一度程度、東京の劇場で演劇仲間とお芝居をすることがあります。今回、鑑賞する「さとうきび畑の唄」は、明石家さんまを主人公とした沖縄を舞台とする物語です。社会の授業で学んだ沖縄のこと、特に太平洋戦争前後のことを物語とし、「ふつう」に暮らす家族が、戦争により大切なものを奪われていく悲しさ、戦争の真実、平和の大切さを、今日はぜひ考えてほしいと思っています。

【ストーリー】

沖縄の那覇で小さな写真館をいとなむ平山幸一（明石家さんま）は、写真を撮りにくる人たちの幸せそうな笑顔を見ているだけで嬉しくなってしまう、人のいい男だ。妻の美知子（黒木瞳）とはかけ落ちして結婚。学校の先生をしている紀子（仲間由紀恵）との結婚が決まった長男の勇（坂口憲二）をはじめ、次男の昇（勝地涼）、長女の美枝（上戸彩）など5人の子どもにめぐまれ、今また美知子のお腹には6人目の命がやどっている。

しかし、昭和19年（1944年）6月、日本はサイパンの戦争に負け、アメリカ軍による沖縄上陸が行われようとする頃になると、幸せな平山一家にも戦争の暗い影が忍び寄る。家族は、戦争にほんろうされ、ばらばらになっていく……。

脚本：遊川和彦



●年生:チャップリンの映画を見よう!

「**独裁者**」 (1940年制作) 痛烈にヒトラーの独裁政治を批判した作品です。

1939年9月、ドイツがポーランドに侵攻し、第二次世界大戦が始まったその月から撮影を開始し、1940年に完成しました。(製作・監督・脚本・主演～チャップリン)

チャップリンは初め、「独裁者」のエンディングは、戦争が終わりユダヤ人と兵士が手に手を取って踊り、日本も中国との戦争で爆弾の代わりにおもちゃを落とすという脚本にしていました。

しかし、これでは独裁者ヒトラーに対する怒りを表現できないと脚本を変え、最後のところで6分間の演説(これが有名な映画「独裁者」の演説)をすることしました。

演説内容は裏に載せていますが、チャップリンは独裁者やファシズムを否定し、民主主義こそが人々に平和をもたらすものであると訴えます。最後の演説にチャップリンは、一人の人間として自分のできる限りの力と熱い思いを込めました。独裁者ヒトラーを批判し、平和を求める熱いメッセージの入ったこの映画を、ぜひしっかり見て欲しいと思います。

チャップリンはヒトラーをもじった独裁者ヒンケルと、ユダヤ人の床屋(チャーリー)という1人2役を演じています。



床屋のチャーリー



独裁者ヒンケル

【あらすじ】

第一次世界大戦の1918年、トメニア国(ドイツのこと)の床屋チャーリー(チャップリンが演じる)は、乗っていた飛行機の事故で記憶喪失になり20年間入院した。入院している間にトメニア国では、ヒンケル(同じくチャップリンが演じるヒトラーのこと)が独裁者となり世界征服に向け、国民をあり、ユダヤ人を迫害しはじめた。

記憶がもどった床屋のチャーリーは、ユダヤ人街にある自分の店に帰ったが、トメニア軍の親衛隊による暴力にあい、町を追われることになる。

一方、世界征服を夢見るトメニア国の独裁者ヒンケルは、オストリッチ(オーストリアのこと)を侵略する計画を立てる。トメニア国の近くにあるバクテリア国(イタリアのこと)の独裁者ナパロニー(ムッソリーニのこと)もオストリッチを征服しようと考えていた。2人の独裁者はけんかのような会談を行う。

トメニア国の独裁者ヒンケルはひそかにオストリッチに行き、軍を動かしオストリッチを侵略した。トメニア国からオストリッチに逃げていたハンナ(床屋チャーリーの恋人)は、トメニア軍に捕まる。

その頃、トメニア軍の収容所に入れられていた床屋のチャーリーは、トメニア軍の服を着て逃げた。どういう訳か、床屋のチャーリーをトメニア軍の人たちは、独裁者ヒンケルとかん違いし、オストリッチの国民の前でファシズム勝利の演説をするようにすすめる。ファシズム勝利の演説をするため、演台に立った床屋のチャーリーは、「自由や民主主義は決して死なない、独裁者は機械のような心を持っている。兵士たちよ、独裁者に従うな。」と強く民主主義の大切さを訴える。

オストリッチの民衆から大きな拍手を受ける床屋のチャーリー、最後にハンナに対して励ましのメッセージを優しく語る。

オストリッチの民衆を前に熱く訴える床屋チャーリーの演説

映画「独裁者」最後の感動的な演説（日本語訳）

(I'm sorry, but I don't want to be an emperor.)

ごめんなさい。私は皇帝にはなりたくない。

支配はしたくない。できれば援助したい。

ユダヤ人も黒人も白人も、人類は互いに助けあうべきである。

他人の幸福を願い。お互いにうらみあったりしてはならない。

世界には全人類をやしなう富がある。

人生は自由で楽しいはずであるのに、貪欲が人類を毒し、

憎悪をもたらし、悲劇と流血をまねいた。

スピードが自由をうばい、機械は貧富の差をつくり、知識を得て人類は懐疑的になった。

思想だけがあって感情がなく、人間性が失われた。

知識より思いやりが必要である。思いやりがないと暴力だけが残る。

飛行機とラジオは世界を縮め、人類の良心に呼びかけて世界を一つにする力がある。

私の声は全世界に伝わり、失意の人々にも届いている。これらの人々は罪なく苦しんでいる。

人々よ 失望してはならない。貪欲はやがて姿を消し、恐怖もやがて消え去り、独裁者は死に絶える。

人々は再び権力を取り戻し、自由は決して失われぬ！

兵士よ 犠牲になるな！ 独裁者の奴隷になるな！

独裁者は君たちをだまし、犠牲をしいて家畜のように追い回している！ 独裁者は人間ではない！

心も頭も機械に等しい！ 君たちは機械ではない！ 人間だ！ 心に愛を抱いている。愛を知らぬ者だけが

憎みあうのだ！ 独裁を排し、自由のために戦え！

“神の王国は人間の中にある”すべての人間の中に！ 君の中に！

君たちは幸福を生み出す力を持っている。

人生は美しく、自由であり、すばらしいものだ！ 民主主義のために力を結集しよう！

よき世界のために戦おう！ 青年に希望を与え、老人に保障を与えよう！

独裁者も同じ約束をした。だが、彼らは約束を守らない！

独裁者の野心を満たし、思い通りに人をあやつった！

戦おう 約束をはたすために！ 世界に自由をもたらし、国境を取り除き、貪欲と憎悪を追放しよう！

良心のために戦おう！

文化の進歩が全人類を幸福に導くように、兵士よ 民主主義のために団結しよう！

（オストリッチの民衆から大きな拍手がある）

（床屋のチャーリーが、恋人ハンナへ最後の呼びかけ）

Hannah, can you hear me?

Look up Hannah. Look up.



レンタルショップにも置いている「笑の大学」は、随所に笑いがあり、最後は涙が出る作品。中学3年生におすすめ。実在した人物をもとに、作品を三谷幸喜が書いている。

日本国憲法 第21条

- ①集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する。
- ②検閲は、これをしてはならない。通信の秘密は、これを侵してはならない。

第二次世界大戦までの日本は、戦争を推し進めるため国民の娯楽が規制される時代であった。そのことを痛烈に批判する演劇を三谷幸喜さんが作った。今回は映画版（2004年公開）の『笑の大学』を観て、日本国憲法で保障されている「基本的人権の尊重」の大切さを確認してみてください。

わらい

『笑の大学』

キャスト

向坂（さきさか）睦男	・ ・ ・ ・	役所広司
椿一（つばきはじめ）	・ ・ ・ ・	稲垣吾郎
原作・脚本		三谷幸喜
監督		星護



ストーリー

映画の舞台は、1940年（昭和15年）の東京浅草。戦争への道を歩み始めていた日本。国民の娯楽である演劇は規制され、警察で台本の検閲を受けなければ上演できない状況にあった。

そんな時代に生まれて一度も心の底から笑ったことがない検閲官（向坂）と、劇団「笑の大学」の作家（脚本家 椿一）が警視庁の取調室で出会う。検閲官の向坂は劇団「笑の大学」の上演を中止に持ち込むべく、作家椿の台本に対して笑いの要素を取り除くように無理難題を言ってくる。しかし、作家椿は劇団「笑の大学」の上演を何としても許可してもらおうと必死に努力するのであった。

戦争を一人の人物から掘り下げていく教材

～無言館に飾られている日高安典さんの絵から戦争を語る～

無言館 日高安典さんの描いた裸婦より

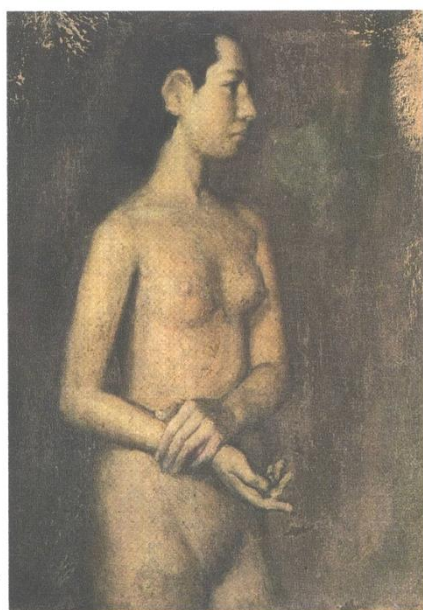
1997年長野県上田市に「無言館」という美術館が開館しました。「信濃デザイン館」の分館として、本館の東側の丘陵地に開館した慰霊美術館です。この美術館には、太平洋戦争で志半ばで戦死した画学生60余名の遺作・遺品が収蔵されています。その中の1枚の絵を今回紹介します。

日高安典さんが描いた裸婦です。(まだ完成していない作品です)

説明文には「あと5分、あと10分、この絵を描き続けていたい。外では出征兵士を送る日の丸の小旗が振られていた。生きて帰ってきたら必ずこの絵の続きを描くから……安典はモデルを務めてくれた恋人にそう言い残して戦地へ発った。しかし、安典は帰ってこなかった。もし、あなたの美術館がお国の美術館だったら、私はきっと兄の絵をあずける気にはならなかったでしょう。と弟の稔典さんは言う。なぜなら、安典はそのお国の命令で戦地へ行ったんですから……。」と書いてあります。

1941年12月8日アメリカのハワイ真珠湾を日本が攻撃することから始まった太平洋戦争。その前から日本は中国への侵略戦争を進めていました。日中戦争、そこで起こった悲劇。そして、太平洋戦争と日本は侵略戦争の道をひた走り、多くのアジアの人々や日本の人々を犠牲にしていきました。

戦争とはいかなるものか、日高安典さんの絵を見るだけでも伝わってくるような気がします。



裸婦

ひだかやすのり
大正七年一月二十四日、鹿児島県種子島に生まれる。昭和十二年四月東京美術学校油画科に入學。豊島区長崎町のアトリエ村に寄宿する。十六年十二月繰り上げ卒業。十七年入營し、満州(中国東北地方)メントカより南方へ向かう。從軍中は画才をみとめられて特別室で絵を描いていたが、二十年四月十九日、ルソン島バギオにおいて戦死。享年二十七歳。



「自作映画」で平和を伝えたい！

～「8・6 平和のつどい」から生まれた「手作り平和教材」～

2012年度 感動の平和教材ビデオ

『伝える』



ドラマ仕立ての平和教材第一作

2012年作品 20分

『伝える』

ある家族が広島への旅をした。

“あの日”を問うために…

“想定外の奇襲”とされてきた広島・長崎への原爆投下。“想定外”ではなかった。

広島に原爆が投下されるのを、当時の日本政府も軍部も知っていた。でも、国民に知られることはなかった。

少なくとも、長崎の場合、原爆搭載機が小倉を断念し長崎へ迂回する間に、広島の体験を踏まえ、「避難しろ」「ものかげに隠れろ」の指示を出すだけで多くの命が救われたはずだ。

「戦争する国」は、国民のいのちなど助けない。

作品では、広島市の被爆遺跡を巡る場面もあり、平和学習にも活用できる



参加作品

＜解説＞

作品は、「平成23年度 文化庁芸術祭賞 テレビ・ドキュメンタリー部門『NHKスペシャル 原爆投下 活かされなかった極秘情報』に触発され制作されました。

米軍は、原爆投下に備え、バンプキン爆弾と呼ばれる模擬原爆投下訓練を日本各地の都市を使って行っていた。特徴は、B29の三機編隊で日本に侵入すること、特別な暗号を使っていること、巨大な重量のある爆弾をたったひとつ投下すること。当時日本も理化学研究所の物理学者仁科芳雄を中心に原爆開発をすすめており、新兵器の可能性も理解していた。

「国民の生命の安全よりも、国の担当者の事情やメンツを優先させた驚くべき実態」を知ったときの

＜参考資料＞



NHKスペシャル

原爆投下 活かされなかった極秘情報

放送日：2011年8月6日（58分）

手作り平和教材

なつぞら青く

—夢は一人じゃ見られない—

舞台は、ある高校の新聞部。「ペンに剣よりも速し」がモットーの新聞部に二つの問題が。一つは、新聞の編集方針を巡る部内の対立。

先輩たちが築いてきた平和にこだわる編集を守り通した部長のひなの。爆撃機隊の取材を始めることにしたひなのが見たものは・・・



2013 8・6平和のつどい

ある新聞部の物語

2013年作品 23分

なつぞら青く

ある高校の新聞部を舞台に、広島、北九州の歴史をふり返る。

北九州門司は、大陸侵略の兵站地だった。戦後も朝鮮戦争、ベトナム戦争でも、補給基地、兵站地の役割を果たし続けていく。

新聞部の高校生たちは、次第にその歴史に気づきはじめる。

8.6平和のつどい 参加作品

ヒロシマの 有る国で

被爆後の広島。遊び相手の子どもたちを失ったオモチャたちがくりひろげるドラマ。

そんな作品を作っているある高校の映像作品部が舞台。

作品中、天草であの日を体験した中原先生の証言も聞ける

2014年作品 23分

8.6平和のつどい 参加作品

関門高校映像制作部。ヒロシマをテーマに、パラ動画で人形劇の映画作りを進めている。廃墟になった被爆直後のヒロシマで、原爆によって子どもたちと引き離されたおもちゃたち。おもちゃたちは、何を思い、何を語るのか。



2014. 8. 6平和の集い参加作品

手作り平和教材

青い空は青いままで

20XX年の日本、そこでは憲法は停止され、世界各地で防衛のための戦争をくりひろげていた。

20XX年のSFクラブの拓也は、時代の流れをかえるべく過去へ向かう。向かったのは、2015年・・・。



2015年作品 23分

青い空は青いままで

憲法が停止し、軍事立法がなされた近未来から現在にやってきた少年と現在に生きる高校生が織りなすSFX仕立ての作品。

憲法が停止した近未来!そこには、言論の自由はなく、すでに学校が戦場だった。

決してSFXといえない近未来を警告する異色の作品。

8・6 平和のつどい

参加作品

明日にかける橋

2016年作品 23分

平和について考えていきたいと思う若い先生。でも、学校現場は、個人の努力ではどうにもならない忙しさ。

長崎に取材した意欲作品。作中、長崎の被爆遺跡、戦跡も紹介。長崎への修学旅行の事前学習にも活用できる。

この作品は特に若い先生たちに見てほしい作品。

8・6 平和のつどい

参加作品

明日にかける橋

2016 夏

あの感動から5年!
8・6映画班が長崎へ

いつもと違う夏、暑苦しく息苦しい
平和な時期を戦争への準備期間と
としか理解できない“為政者”たち
いつもと違う夏、たぎる平和への熱い思い
戦前への扉を開けようとしている今
問われるのは私たちだ

いつもと違う夏、今私たちは顔を上げる



多文化化する教育現場
思考は止まり、目は閉ざされる
16歳での、数え切れない無念の死
その戸を開こうともしない自分の役
その中で“明日にかける橋”を築くのは
自分たちだ気づきはじめる



手作り平和教材 ドキュメントドラマ **2017**

大地に 平和を

「8.6平和のつどい」
参加作品



竹中さんのお母さん
が、あの日行かず
だったところ



新谷さんのおじい
ちゃんが、あの日
建物疎開の動員で
行った場所



豊永さんのお母さん
と弟さんが被爆した
場所



新見さんが被爆した
場所



■「おじいちゃんの最後を知りたい」 新谷さんは長年そう思ってきました。
■当時6歳だった新見さん。建物の下敷きになったお母さんの「あんたは、逃げ
んさい!」の声を、72年たった今でもはっきり覚えてます。
■のちに教員になった豊永さんは、きのこ雲の形が鬼畜米英と教えられた国々の
指導者の顔に見えたといひ、当時の教育を振り返ります。



風になりたい

2018年作品 25分

1970年代後半の広島の公立「夜間
中学」が舞台。

韓国のハプチョン出身のオモニ、沖
縄出身の青年、母とともに日本に引き揚
げてきた韓国生まれの少女、中国残留
孤児の子どもたち。そこに戦後日本の縮
図があった。

「学ぶことは生きること」夜間中学校
の姿もよくわかる。

8.6平和のつどい 参加作品

8.6平和のつどい 参加作品

大地に 平和を

おじいちゃんの最期を知りたい。どこで亡くな
ったのか。どんな風になくなったのか。

職場からの動員で広島市中島町に建物疎開
に行ったおじいちゃん。家族の懸命の捜索にも
かかわらず手がかりすら見つからなかった。

広島に残されている職場の社史、手記を丹念
に読みほぼ、ここでなくなったという場所を探し
当てた。

作品中、たくさんの方々に体験を聞いている。

手作り平和教材

2018 8.6
平和のつどい

風に なりたい



「この学校に
出会うまでが大変だった」

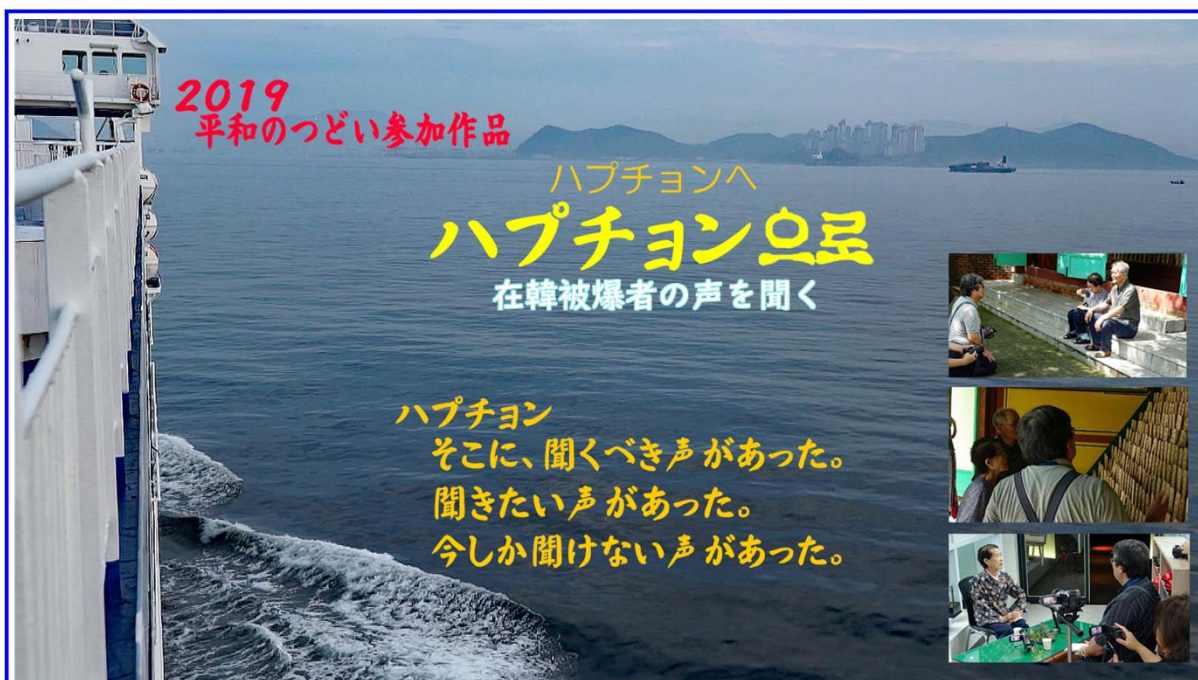
このお話は、

1978年、広島のある夜間中学の物語。
教室には、在日のオモニ、中国残留孤児
の母親と日本に引き揚げてきた兄弟、
沖縄の青年など、戦争で困難辛苦の
人生を歩んできた人びとが集う。

でも、学校には、
夢があった。
希望があった。
未来があった。



2018.8.6 広島



8.6 平和のつどい 参加作品 2019年作品 22分

ハプチョンへ

「ハプチョンへ行きます」と言って40年がたった。あまりに遅い訪問。
でも、訪ねたハプチョンで出迎えてくれたのは、懐かしい広島弁。
被爆者たちはすでに高齢。私たちを待っていたかのように体験を語ってくれた。
「先生、まっすぐな歴史を教えてください」「嘘ばかり言っていると、嘘がほんまになってしまうけん」

《解説》 日本の植民地下、朝鮮の人々は仕事を求めて日本に渡った。強制連行以前に渡ってきた人々は、同郷の知り合いを訪ね日本を目指した。だから、大阪には済州島出身の人が多く、広島はハプチョン出身の人が多い。

解放後、(日本の敗戦後)朝鮮人被爆者の多くもふるさとを目指したが、未知の原爆症、偏見、朝鮮戦争、ことばの問題などさまざまな困難が人々を待ち受けていた。

証言者も「来年は伝えられないかもしれない。」と高齢の壁を感じながら、貴重な体験を話してくれた。

ぜひ見てほしい作品である。

☆どの教材も貸し出しできます！

☆お問い合わせは教育会館まで！

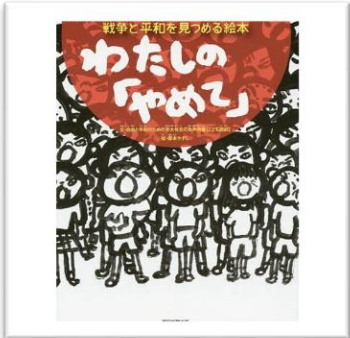
平和を考える絵本一覧表

～北九州市母と女性教職員の会・「8・6・平和のつどい」読み聞かせ絵本より～

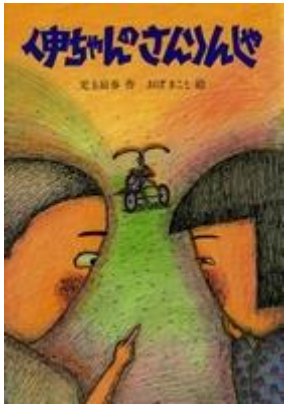
※教育会館に紙芝居・絵本があります。貸し出しできます。

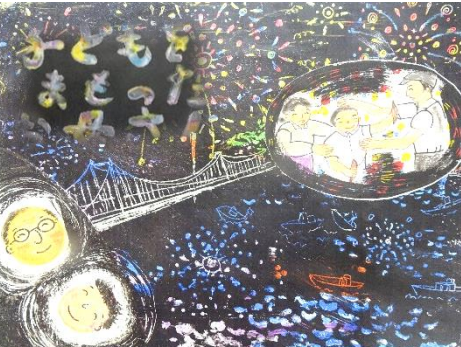
☆印絵本は CD にスライド編集したものもあります。貸し出しできます。

本の名前 ・作者・絵・出版社	表紙	あらすじ
☆へいわってすてきだね 詩： 安里 有生 画： 長谷川 義史 出版社： ブロンズ新社		へいわってなにか。ぼくは、かんがえたよ。ねこがわらう。おなかがいっぱい。やぎがのんびりあるいてる。ちょうめいそうがたくさんはえ、よなぐにうまが、ヒヒーンとなく。へいわっていいね。へいわってうれしいね。みんなのころから、へいわがうまれるんだね。沖縄に住む当時小学1年生だった男の子が書いた詩に長谷川義史さんが絵をつけた平和への願いがこめられた絵本。
☆へいわとせんそう 文： たにかわ しゅんたろう 絵： Noritake 出版社： ブロンズ新社		くらべてみると、みえてくる。「へいわのボク」と「せんそうのボク」では、なにが変わるのだろう。同じ人や物や場所を見開きごとにくらべると、平和と戦争のちがいがみえてくる。これまでになかった平和絵本
☆ほうれんそうはないています 文： 鎌田 實 絵： 長谷川 義史 出版社： ポプラ社 特集		ぼくらは生まれてきて、大きくなって、『いただきます！』を楽しみに待っていたんだ…。とつぜん断ち切られた、ほうれんそうたちの想いとは……。原子力発電所の事故でうまれてしまう、哀しみ痛みの深さは底しれない。今も未来もこどもたちを泣かせたくない、守りたい、医師・作家である鎌田實と、絵本作家である長谷川義史。がちりタッグをくんで、ふたりいっしょに、今こそどうしても伝えたい届けたい、強く熱いメッセージ。
☆おかあさんおいのり 作： 武鹿 悦子 絵： 江頭 路子 出版社： 岩崎書店		わたしのあかちゃん、その手がどうか銃などにぎりませんように。世界中のこどもたちから平和をうばわないで…。母の子への愛情は万国共通。戦後70年、平和への願いをこめておくる絵本。

☆せんそうしない 文： 谷川 俊太郎 絵： 江頭 路子 出版社： 講談社		子どもに戦争を伝えるということはたいへん困難です。それは、事情が複雑で説明に相應の文字量が必要なこと、すでに失われたモノ、コトバ、価値観がとて多いからです。その「戦争」を最小限の言葉で、本質を表現しようという試みがこの作品です。 谷川俊太郎の言葉で語られる戦争への思い、江頭路子の絵の透明な生命力。人間の知恵はどこにあるのかを、静かに問いかける絵本です。
☆わたしのやめて 文： 自由と平和のための京大有志の会 絵： 塚本 やすし 出版社： 朝日新聞出版		戦争って些細なことの積み重ねなんだ。戦争ってコントロールできないんだ。自由と平和のための京大有志の会の、極太で強い声明書を、こどもに分かりやすく訳して、その思いをそのままに絵にした絵本です。
☆ちいちゃんのかげおくり 作： あまん きみこ 絵： 上野 紀子 出版社： あかね書房		第2次世界大戦の悲惨さを描く物語。ちいちゃん一家の戦争が、やさしく悲しく描かれます。体の弱いお父さんを戦争に送り、家族3人の暮らしが始まったある夏のこと、ちいちゃん一家は空襲に出会います。空襲で焼け出されたちいちゃんは一人ぼっち。空腹に絶え、生きながらえようとする姿は、多くの戦争孤児たちの姿そのものでした。家族4人のかげおくりが、胸に深く焼きつきます。小学3年生の教科書に掲載されている作品。戦争がどんなものなのか、話し合うきっかけになるでしょう。
ひろしまのピカ 作・絵： 丸木 俊 出版社： 小峰書店		昭和20年8月6日、原子爆弾の光が広島空をつらぬきました。他の戦争の本よりもリアルな迫力の絵。服ははだけ、胸もあらわな女性や、川に浮かぶ死体の絵。必死というより、壮絶な形相の人々。その描写は、その世界にいるような気にさえなります。戦争への怒りと鎮魂と平和への願いをこめて送る絵本。世界二十数ヶ国で読み継がれています。

おりづるのたび 作： うみの しほ 絵： 狩野 富貴子 出版社： PHP 研究所		原爆投下で爆風での被害こそ免れたものの10年後、原爆病でなくなった女の子の話から始まります。 お話はここで終わりではなくその後の平和運動へとつながっているところが最大のテーマです。平和祈願の「折り鶴」が、日本から世界に広まっていったようすを絵で表現したノンフィクション絵本。平和への祈りが伝わってきます。
お母ちゃんお母ちゃん むかえにきて 作： 奥田 継夫 絵： 梶山 俊夫 出版社： 小峰書店		戦争は 国と国との争いで みんなが戦争にかり出され、厳しい戦場になると、子どもたちは集団疎開したり、爆撃にあったり、食べ物もなく逃げまどったり、それは今の生活では考えられないような恐ろしいことだった。せんそうにかつまではと、家族とわかれたボクちゃん。『ボクちゃんの戦場』の作家と金のリンゴ賞の画家がおくる集団疎開の絵本。
とろろながし 作： 松谷 みよ子 絵： 丸木 俊 出版社： 偕成社		広島に原爆が落とされた日。8月6日のとうろう流しのお話です。母親となってひさびさに広島を訪れた女性は、子どもととうろうを流します。おじさんはあの原爆で亡くなり、両親も原爆症で亡くなったのでしょうか。平和を祈り魂たちの冥福を祈るのですが、流されたとうろうが海から戻ってきて、さまよい続ける魂たちの姿を目にします。松谷さんの平和への祈り、丸木さんの鎮魂の祈りが凝縮された絵本
星は見えている 全滅した広島一中一年生父母の手記集 編集：秋田正之 出版社：日本ブックエース		原爆で死んだ県立広島第一中学校生徒の遺族により書かれた手記集『星は見えている』は、昭和二十九年八月に初版発行後、昭和五十九年十一月及び平成十七年七月に遺族により再版が行われ、さらに平成二十二年十二月に株式会社日本ブックエースにより初版本の再版が行われました。
つるちゃん 著： 金城 明美 出版社： 高文研		『つるちゃん』は、沖縄で小学校の教員として勤めている金城明美さんが、母親の子ども時代の戦争体験を語った絵本です。作者の金城明美さんは、母親（つるちゃん）からくり返し沖縄戦のことを聞かされました。明るい性格の母親が、涙ながらに語る戦争の悲惨さを、戦争を知らない世代の金城さんはどのように受けとめたらよいのか…。そんな思いの中から出来上がった絵本です。

伸ちゃんのさんりんしゃ 作： 児玉辰春 絵： おぼ まこと 出版社： 童心社		伸ちゃんがねだってねだってやっと手に入れた三輪車は、おじさんのおフルでした。戦争で使う武器のためにお寺の鐘も供出しなければならなかった時代です。それなのに、手に三輪車で遊んでいるときに原爆が投下されました。伸ちゃんと君ちゃんと一緒に埋葬されました。仲良しの二人が手をつなぐようにして埋葬されたこと、笑い顔に似たお地蔵さんが二人を供養してくれ、この絵本は多くの象徴を散りばめています。一つ一つがメッセージとして伝わってくる絵本です。
さがしています 作： アーサー・ビナード 写真： 岡倉 禎志 出版社： 童心社		ヒロシマを知っているものたちが、さがしています—たいせつな人びとを、未来につづく道を。広島平和記念資料館に収められた約2万1千点もの収蔵品。その中から時計、軍手、弁当箱など今の私たちにとっても身近なものたちが、「カタリベ」となってヒロシマを語りはじめます。カタリベたちに出会い、じっと耳を傾け、それを言葉にしたのはアメリカ生まれの詩人アーサー・ビナード。平和記念資料館に収蔵されている展示物に幾度となく向き合い、その物たちにひそむ物語を通訳者として言葉で伝えたいと思ったというのが始まりなのだそうです。
ふりそでの少女 松添博／作絵 (長崎平和絵本シリーズ) 出版社： 汐文社		松添博さんが1974年、日本画の素養を生かして1枚の絵に描いた。振袖を着て火葬されている二人の少女。 88年、少女は福留美奈子さん(当時9)と大島史子(ちかこ)さん(同12)と判明。 92年、この絵をもとに絵本をまとめ、出版した。
☆いわたくんちのおばあちゃん 作： 天野 夏美 絵： はまの ゆか 出版社： 主婦の友社		広島の実話に基づいた作品。 「ぼく」の友だち、いわたくんのおばあちゃんは写真を撮られるのが嫌いなのです。何気ない普通のエピソードから、やがて、いわたくんのおばあちゃんの実話が語られます。いわたくんのおばあちゃんは、広島の実話に基づいた作品。原爆からの生還者。でも、両親、3人の妹を亡くしていたのです。 残ったのは、原爆投下の数日前に撮影した家族写真だけだったのです。 何より、本物の写真が添えられていることが、リアリティそのものとして胸に迫ってきます。 「ぼく、おとなになっても、戦争せんよ。ほんとよ。」の文章が、とても力強いです。

☆紙しばい 嘉代子桜 著 者 名 : ピースバトン・ナ ガサキ 出 版 社 : ピースバトン・ナ ガサキ		北九州市の小中学校に植樹されている嘉代子桜にまつわるお話の紙芝居です。 原爆で亡くなった娘 嘉代子の為に両親が城山小学校に植えた桜は「嘉代子桜」と呼ばれるようになりました。実話をやさしい絵で表現しています。
☆自作紙芝居 月桃の花 北九州市教組 西地区平和教育 分科会作成		住民を巻き込んで地上戦が戦われた沖縄では、兵士よりも一般住民の犠牲が多く、一家全滅をした家がたくさんあった。 毎年6月になると、主の帰らない敷地の一角にひっそりと咲く月桃の花。 そんな光景を題材に小学校低学年でも分かりやすく沖縄戦を描いた紙芝居。
☆自作紙芝居 美ら海のジュゴン 北九州市教組 西地区平和教育 分科会作成		けんちゃんとかおりちゃんは、辺野古に住むおばあちゃんと一緒に美ら海水族館へ。二人がジンベエザメを見ていると、不思議な世界へ…。そこに突然ニュース。～2004年8月13日、沖縄国際大学に米軍ヘリが墜落炎上～ 沖縄がかかえる基地問題を小学生にも分かるように紙芝居にしました。
☆自作紙芝居 子どもをまもったおかあさん 北九州市教組 東地区平和教育 分科会作成		1945年6月29日の門司空襲で、被災した母とこの話を体験された方の話を元に作った紙芝居です。 門司港にたけちゃんとお母さん、お父さんのような家族がたくさんいたことを皆さんに伝えたいと思って作りました。
☆自作紙芝居 八文字焼きに思いをこめて 北九州市教組 福退教戦争を語り継ぐ会作成		今、空襲体験者が年々高齢化し、戦争体験の風化や若い世代への継承が課題となっています。私たちは体験者の話を聞いた者の責任として、地元、八幡大空襲の実相を後世に語り継いでいかねばなりません。

☆自作紙芝居 ビョンさん 北九州市教組 西地区平和教育 分科会作成		ヒロシマ・ナガサキで被爆したのは日本人ばかりではありません。 広島で生まれた韓国人ビョンさんは、八月六日のあの時、10歳の女の子でした。 終戦後、祖国韓国に帰ったビョンさんの身体には紫色の斑点が・・・。「人にうつる」「不治の病」と言われ離婚まで。日本で治療した外国人被爆者第1号となったビョンオクさんの証言をもとにつくった紙芝居。原爆の問題として、戦後補償の問題としても取り上げることができます。
☆自作紙芝居 さんぽ 北九州市教組 西地区平和教育 分科会作成		1941年、太平洋戦争の真っただ中、国民学校が設立され、忠君愛国の志気を育てるという教育がなされていました。これによって多くの子どもたちが戦場に駆り出されました。では、現在はどうでしょうか？子どもたちを再び戦場に送らないために、この紙芝居を通して考えてみてください。

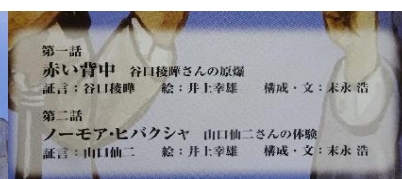


原作／風船爆弾を語り継ぐ会
絵／友野 美保子 15場面

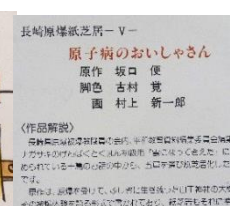
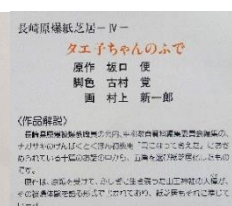
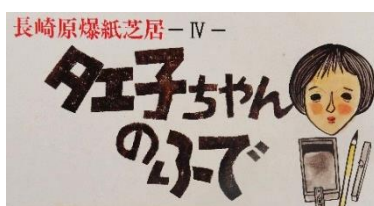
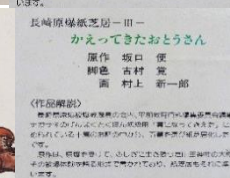
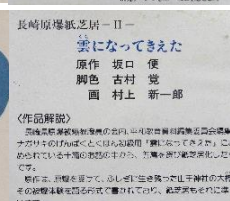
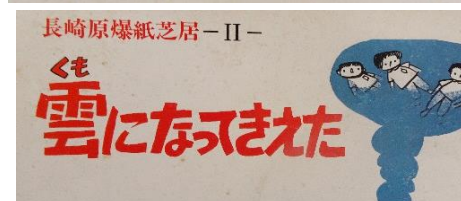
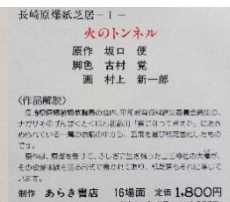
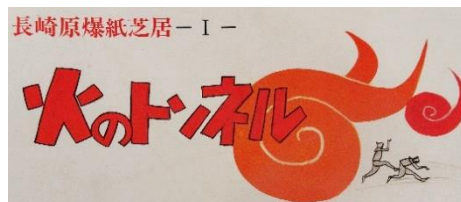
小学5年生のつばさが、八女市伝統工芸館で見つけた“軍用紙”をきっかけに、風船爆弾をつくっていたトシおばあちゃんと出会い、八女の手漉き和紙と戦争の歴史をひもとく。風船爆弾を作る過程を始め、戦争中の学校生活などの話をするうちに、急に黙り込んでしまったトシおばあちゃん。

戦後70年経っても消えることのない心の痛み、二度と戦争をしてはいけないこと、しっかり勉強をしてほしいという、トシおばあちゃんの思いを子どもたちに伝え、いっしょに考えていきたい。

制作／太陽印刷(有) 久留米市御井町崎 5-4-6 TEL.0942-45-1200



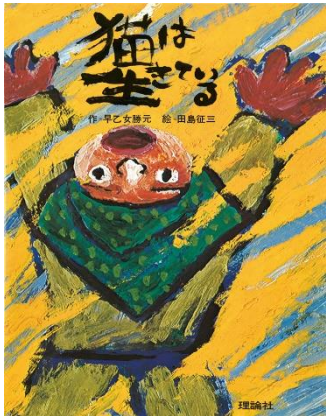
こんな紙芝居も
あります！



平和アニメ DVD

※教育会館で貸し出しをしています。借りたい方は、教育会館にお問い合わせください。

100 ばんめのサル 原作：ケン・キース・ジュニア 絵本原作：きたむらゆみ (カタツムリ社刊) 制作：共和教育映画社		もし、日本が戦争に巻き込まれたら？ そして、核兵器が使われたら・・・ 核兵器はいらない！ 世界中の人たちが手をつなごう！みんなで地球を守ろう！ それを 100 ばんめのサルが教えてくれます。 その「100 ばんめのサル」とは・・・
おばけ煙突のうた 原作：早乙女勝元 出版社：理論社		東京大空襲は子どもたちから学校を、遊びを、そして生命を奪った。 おばけ煙突がそびえたつ下町を舞台に戦時下の少年たちを描く。
月がのぼるまでに 原作者 武田鉄矢 監督 山本暎一 小学館		時は太平洋戦争が終わるころの信州。捕虜になったアメリカ兵と、 純朴な少年の間に生まれた心あたたまる友情を描く絵本です。

猫は生きている 原作：早乙女勝元 絵：田島征三		東京を焼け野原と化した大空襲。生きのこったのは…。戦争をにくみ、強く平和を願う作家と画家が生みだした迫力ある大型絵童話。
おかあちゃんごめんね 原作：早乙女勝元 子ども平和図書館		太平洋戦争もどたんばの昭和20年、大阪堺市に6歳の女の子が住んでいました。名前は絹ちゃん。絹ちゃんの、いつまでたっても決して忘れることのできない戦争のお話です…。少女の空襲体験から、平和とは何かを考える。
ひろしまのピカ 作・絵 丸木俊 小峰書店		昭和20年8月6日、原子爆弾の光が広島のを空をつらぬきました。戦争への怒りと鎮魂と平和への願いをこめて送る絵本。世界二十数ヶ国で読み継がれています。
はとよひろしまの空を 原作 大川悦生 脚本・監督 矢吹公朗		太平洋戦争末期、家族とかわいがってくれた飼い主の少年を原子爆弾で亡くし、一羽残されたためすの子鳩は、やがてやさしいおす鳩に出会い、愛の巣をつくりともに卵をかえそうとしますが…。焼け野原になった町を必死で生き抜こうとした鳩の姿を通して、命とは、平和とは何かを問いかけるアニメーション。

さようならカバくん 原作：早乙女勝元		むかし、上野動物園に、大太郎と京子というカバがいました。 しかし、戦争がはげしくなると、えさも水も、もらえなくなり、 どんどん弱って死んでいってしまった… …。
ちいちゃんのかげおくり 原作：あまんきみこ あかね書房		お父さんが出征する前の日のことです。先祖のお墓参りに行った帰り道、 ちいちゃんのお父さんは家族に「かげおくり」の遊びを教えてくださいました。 影法師をじっと見つめて10数え、数え終えたらすぐ空を見上げると影が そっくり空に映って見えるというのです。 ちいちゃんとお兄ちゃん、お母さん、お父さんは4人で「かげおくり」を しました。影法師は、まるで記念写真のように空に映りました。
パパママバイバイ 原作：早乙女勝元		小学校で運動会があった日、元気で仲の良いユー君、ヤス君兄弟の住む町に、<u>ファントム戦闘機</u>が墜落してきた。
かよこ桜 作：山本典人 絵：井口文秀 新日本出版社		“いきたくないけど”といいながら、かよ子が学校へ出かけた日、 原爆がおとされた。“なぜとめなかったのだろう”母は、自分をせめながら、 平和の願いをこめて、桜の苗木をうえるのだった。被爆体験をもつ作者が、 万感をこめてつづる本当の話。

夏服の少女たち 原作 大野充子 脚本 内館牧子 NHK エンタープライズ		昭和 20 年 8 月 6 日、学徒動員で建物の取り壊し作業にあたっていた 13 歳の少女たちの頭上に閃光が走った。そして彼女たちが自らの手で縫い上げた夏服だけが無残に焼け焦げボロボロになって親元に戻ってくる…。戦時下でありながら、女学生になった喜びをかみしめる少女たちのつかの間の青春の日々をアニメーションで、残された家族の深い悲しみをドキュメンタリーで描く。
ながさきの子うま 作：大川悦生 絵：宮本忠夫		あの夏・・・長崎に落とされた原爆でたくさんの方が命が奪われました。 生まれて四つきの小さな子馬も火の海の中をひとりぼっちで逃げまどわなくてはならなかったのです・・・。 きえることのない戦争の悲しみを、反核の願いとともに強く訴えた物語。
つるにのって 原案：ミホ・シボ 脚本・監督：有原 誠治		小学 6 年生の元気な少女・とも子は夏休みの課題「私の冒険」のため、広島原爆資料館をひとり訪ねます。展示から被爆した人々の思いを追体験したとも子は原爆の恐ろしさに圧倒されます。悲しく重い気持ちのまま向かった平和公園で、色とりどりの折り鶴と少女の像に目を奪われ、キャンディーの包み紙で鶴を折り始めたとも子。その折り鶴にフッと息を吹きかけると、なんと少女の像がとも子の前に舞い降りてきて・・・。
いわたくんちのおばあちゃん 作：天野夏美 絵：はまのゆか		(あとがきより) 2005 年、被爆から 60 年目の夏にこの物語は生まれました。広島のある小学校で実際に行われた「平和学習」の時間。そこで語られた一枚の写真をもとにしたお話です。いわたくんのお母さんは、子どもたちに原爆の話を伝えるとき、こんなふうに結びます。『戦争なんてずっとむかしの話』、なんて思わんでね。ひょっとしたら、『未来の話』になるかもしれないのよ。『未来』それは、君たちみんながつくっていくものだからね。ささやかな、でも切実な、平和の祈りが届きますように。

歌で平和を伝えたい

～「8・6平和のつどい」で歌われた曲から～

	8・6平和のつどい	曲の内容
2012年	① Dona Nobis Pacem ② 青い空は ※②は中学生と一緒に歌う	① 「平和をわれらに」という意味のラテン語で歌う宗教曲歌詞はドナ ノービス パーチェムの繰り返し ② 1971年原水爆禁止世界大会に向け公募され、第1位になった作品
2013年	① Dona Nobis Pacem ② 折り鶴 ③ INORI～祈り～ ※②と③は中・高生と大人で歌う	① 「平和をわれらに」という意味のラテン語で歌う宗教曲 ② 東京都原爆被害者団体協議会 25 周年コンサートに向けて作られた メンバーの高校生の中に、小学校で習ったから知っている、という生徒がいた ③ 残されたのは薬の包み紙で折られた小さな折り鶴たち… 佐々木禎子さんの甥、佐々木祐滋さんが禎子さんだったら、の視点で作詞したもの
2014年	① あの子 ② 一本の鉛筆 ③ いのちの歌 ※③は中学生	① 長崎市立山里小学校の第二校歌にもなっている 児童数約 1300 人、職員、用務員 26 人が原爆の犠牲になった 永井博士の作詞 ② 松山善三作詞で美空ひばりが歌う反戦歌 本人の快諾を得て第1回広島平和音楽祭で歌われた ③ 元々は NHK 連続テレビ小説の劇中歌 今は多方面で歌われている
2015年	① NEGAI ② Smile Again ③ 青い空は	① 2013 年 ③INORI と同じく佐々木祐滋さんの作品 禎子さんを失った家族の視点で作詞作曲 ② さだまさしが作った復興支援ソング 笑顔を絶やさない世界を作っていこうというメッセージは平和な世界を作っていこうにもつながると… ③ 2012 年②に同じ

2016年	① Dona Nobis Pacem ② いのちのリレー ③ HEIWA の鐘 ※①は高校生と大人 ③は高校生	① 2012 年①、2013 年①に同じ ② NHK 沖縄放送局 戦後 70 年テーマソング 戦争に限らず、災害、テロ、犯罪、いじめ、自殺など悲惨な出来事がある現代にあっても、いのちの重みを胸に子どもたちにもたくましく元気に生きていってほしい 生命を大切にして次の世代にリレーしていこうというメッセージを届けたくて… ③ 2007 年 7 月九州・沖縄サミットで紹介された曲 シンガーソングライター仲里 幸広の作品
2017年	① Dona Nobis Pacem ② いのちの理由 ③ クスノキ ④ 伝説の町 ※①は高校生と大人のリコーダー三重奏 ②は中学生	① 2012 年、2013 年に同じ(今回はリコーダー三重奏) ② 法然上人 800 年大遠忌を記念し「法然上人をたたえる歌」の制作依頼を受けた さだまさしの作品 「人はなぜこの世に生まれてきたのか」という疑問を法然上人の考えと組み合わせで表現したという ③ 被爆二世でもある福山雅治が長崎で被爆した楠や一本柱鳥居に生命の尊さや力強さを崇高な空気を漂わせながら表現している ④ 日本の歌シリーズ(永 六輔作詞・いずみ たく作曲)の広島県の曲 『平和公園の原爆ドームをジッと見つめているとこういう曲になります』とは日本の歌を全曲歌ったデュークエイセスの弁
2018年	① 二度とない人生だから ② ねがい	① 坂村真民の詩に作曲の鈴木憲夫は「生きることの真実」を静かに語りかけてくれると言う 歌詞の『二度とない人生だから戦争のない世の実現に努力し…』にそうありがたいものだ… ② 広島市立大洲中学校 3 年生有志と広島合唱団との交流の中から自分たちの思いを「平和宣言」としてまとめたものを元に広島合唱団のたかだりゅうじが作曲した 2003年「国際教育ネットワーク国際会議」のテーマ曲となり、世界中に「5 番」の歌詞を作ろうという企画を広め 2000番を超えるまでになっている

	③ アメイジング・グレイス ※③は中学生	③ 作曲のジョン・ニュートンはイギリスの牧師だが、若いころは「奴隷貿易」にも携わる商戦の船乗りだった。病を理由に船を降り、勉学や多額の献金を重ねる等の努力の末牧師となる。この曲には奴隷貿易に関わったことへの悔恨と赦したもうた神への感謝が歌われている。
2019年	① あの日の授業 ② 高くかかげよ ※台風接近のため、中学生参加できず	① 1947年 当時の文部省が発行した中学1年生の社会科教科書から引用したもの。戦後、教師の言葉がそれまでとは正反対なものになり、めんくらったが教師の一生懸命さは覚えている、と笠木 透(作詞者)は言う。 ② ギリシャ神話を題材とした音楽劇「プロメテウスの火」の最後の曲。①の曲を理想とし 志高く！

※毎年「平和のつどい」の最後に「ヒロシマの有る国で」を会場の全員で歌ってきている

合唱を愛するものとして

合唱を愛するものとして、「歌で伝える」がどこまで可能なのか。

歌の技術はもちろん必要だが、他にも曲の背景を想像できるようにとナレーションを入れたり、適切な映像を映し出したり、ある時から暗譜で歌うことを心掛けたりと工夫してきた。

中学生がステージで歌うのを見て、できることなら私たちも、と退職した教師がグループ（クールシェリユブリュ）を結成し人前で歌うようになった。それが2012年のこと。中学生や高校生と一緒に歌うことも多く、大人にはいい勉強になり、刺激もたくさん受けた。今では大人だけのステージも増えてきている。

コロナ禍の中で、なんだか文化・芸術は置いてきぼりにされているような感があるけれど、どんな事態になっても、音楽の持つメッセージを人々の心に届け、あの戦争を忘れないためにも、「歌で伝える」をモットーに選曲を練り、曲の成り立ちを学び、声を上げ続けるエネルギーを共有したいと切に願っている。



「8・6平和のつどい」で 歌われた曲たち

一本の鉛筆

【歌】美空ひばり

【作詞】松山善三
【作曲】佐藤 勝

1. あなたに 聞いてもらいたい
あなたに 読んでもらいたい
あなたに 歌ってもらいたい
あなたに 信じてもらいたい

一本の鉛筆があれば
私は あなたへの愛を書く
一本の鉛筆があれば
戦争はいやだと 私は書く

2. あなたに 愛をおくりたい
あなたに 夢をおくりたい
あなたに 春をおくりたい
あなたに 世界をおくりたい
一枚のザラ紙があれば
私は子どもが欲しいと書く
一枚のザラ紙があれば
あなたを返してと 私は書く

一本の鉛筆があれば
八月六日の朝と書く
一本の鉛筆があれば
人間のいのちと 私は書く



ヒロシマの有る国で

作詞/作曲 山本さとし

- 1 8月の青空に 今もこだまするのは
若き詩人の叫び 遠き被爆者の声
あなたに感じますか 手のひらのぬくもりが
人の悔し涙が 生き続ける苦しみが

私の国と かの国の人の命は同じ
この青い大地の上に同じ生を得たのに

ヒロシマの有る国で しなければならぬことは
ともる戦の火種を消すことだろう

- 2 かの南の国では 大国がのしかかり
寡黙な少年らが 重い銃に身を焼く
やせた母の胸に 乳飲み子が泣き叫び
はだして裸のまま 逃げ惑う子供たち

故国の土をふむことも 家族と暮らすことも
許されない戦争がなぜに今も起こる

ヒロシマの有る国で しなければならぬことは
ともる戦の火種を消すことだろう

私の国とかの国の人の命は同じ
この青い大地の上に同じ生を得たのに

ヒロシマの有る国で しなければならぬことは
ともる戦の火種を消すことだろう

クスノキ 福山雅治 作詞・作曲

我が魂は この土に根差し
決して朽ちずに 決して倒れずに

我はこの丘 この丘で生きる
幾百年超え 時代の風に吹かれ

片足鳥居と共に 人々の営みを
歓びを かなしみを ただ見届けて

我が魂は 奪われはしない
この身折られど この身焼かれども

涼風も爆風も 五月雨も黒い雨も
ただ浴びて ただ受けて ただ空を目指し

我が魂は この土に根差し
葉音で歌う 生命の叫びを

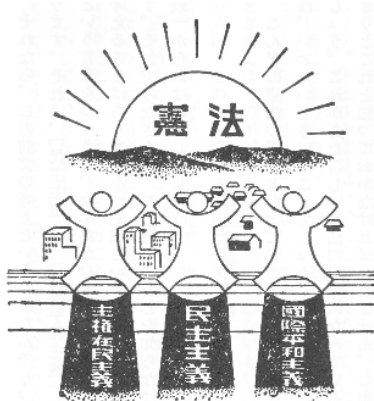




折り鶴

作詞・作曲 梅原 司平

- 1 生きていてよかった それを感じたくて
広島のマチから 私は歩いてきた
苦しみをことばに 悲しみをいかりに
きずついたからだで ここまで歩いてきた
この耳をふさいでも 聞こえる声がある
この心閉ざしても あふれる愛がある
はばたけ折り鶴 私からあなたへ
はばたけ折り鶴 あなたから世界へ
- 2 生きていてよかった それをみつけたくて
長崎のマチから 私は歩いてきた
この胸のいたみを うたごえにたくして
焼けあとの下から ここまで歩いてきた
この耳をふさいでも 聞こえる声がある
この心閉ざしても あふれる愛がある
はばたけ折り鶴 私からあなたへ
はばたけ折り鶴 あなたから世界へ



あの日の授業

笠木 透 作詞

安川 誠 作曲

1. あの日先生は 輝いて見えた
大きな 声で教科書を 読んでくださった
ほとんど何も 分からなかったけれど
心に刻まれた あの日の授業

そこで、今度の憲法では日本の国が、
けっして二度と戦争をしないようにと、
二つのことをきめました。その一つは、
兵隊も軍艦も飛行機も、およそ戦争を
するためのものは、いっさい持たない
ということです。これからさき日本には、
陸軍も海軍も空軍もないのです。これを
戦力の放棄といいます。「放棄」とは
「すててしまう」ということです。
しかし、皆さんは、決して心ぼそく思う
ことはありません。日本は正しいことを、
ほかの国より先に行ったのです。世の中
に、正しいことぐらい強いものはありません。

2. あの日先生は 熱っぽかった
これだけは決して 忘れてはいかんぞ
あわをふいて ほえたり叫んだり
心に刻まれた あの日の授業

もう一つはよその国と争いごとがおこった
とき、けっして戦争によって、相手をまか
して、自分のいいぶんをとおそうとしない
ということ決めたのです。おだやかに相談
をして、決まりをつけようというのです。
なぜならば、いくさをしかけることは、
結局自分の国をほろぼすようなはめになる
からです。また、戦争とまではゆかずとも、
国の力で相手をおどすようなことは、いっ
さいしないことにきめたのです。これを
戦争の放棄というのです。そうして、よそ
の国となかよくして、世界中の国がよい友
だちになってくれるようにすれば日本の国は、
さかえてゆけるのです。

3. あの日先生は 涙ぐんでいた
教え子を戦場へ 送ってしまった
自らをせめておられたのだろう
今ごろ分かった あの日の授業



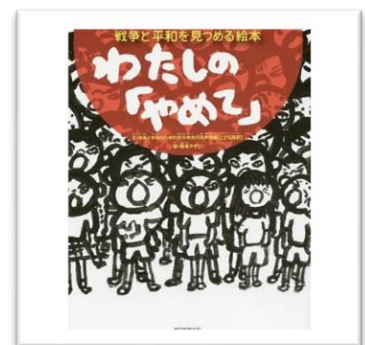
戦争は、防衛を名目に始まる。
戦争は、兵器産業に富をもたらす。
戦争は、すぐに制御が効かなくなる。
戦争は、始めるよりも終わるほうが難しい。
戦争は、兵士だけでなく、老人や子どもにも災いをもたらす。
戦争は、人々の四肢だけでなく、心の中にも深い傷を負わせる。
精神は、操作の対象物ではない。
生命は、誰かの持ち駒ではない。
海は、基地に押しつぶされてはならない。
空は、戦闘機の爆音に消されてはならない。
血を流すことを貢献と考える普通の国よりは、
知を生み出すことを誇る特殊な国に生きたい。
学問は、戦争の武器ではない。
学問は、商売の道具ではない。
学問は、権力の下僕ではない。
生きる場所と考える自由を守り、創るために、
私たちはまず、思い上がった権力にくさびを打ちこまなくてはならない。



わたしの『やめて』

くにとくにの けんかを せんそうと いいます

せんそうは「ぼくが ころされないように さきに ころすんだ」
という だれかの いいわけで はじまります
せんそうは ひとつごろしの どうぐを うる おみせを もうけさせます
せんそうは はじまると だれにも とめられませんが
せんそうは はじめるのは かんたんだけど おわるのは むずかしい
せんそうは へいたいさんも おとしよりも こどもも くるしめます
せんそうは てや あしを ちぎり こころも ひきさきます
わたしの こころは わたしのもの
だれかに あやつられたくない
わたしの いのちは わたしのもの
だれかの どうぐに なりたくない
うみが ひろいのは ひとをころす きちを つくるためじゃない
そらが たかいのは ひとをころす ひこうきが とぶためじゃない
げんこつで ひとを きずつけて えらそうに いばっているよりも
こころを はたらかせて きずつけられた ひとを はげましたい
がっこうで まなぶのは ひとつごろしの どうぐを つくるためじゃない
がっこうで まなぶのは おかねもうけの ためじゃない
がっこうで まなぶのは だれかの いいなりに なるためじゃない
じぶんや みんなの いのちを だいじにして
いつも すきなことを かんがえたり おはなししたり したい
でも せんそうは それを じゃまするんだ
だから
せんそうを はじめようとする ひとたちに
わたしは おおきなこえて「やめて」というんだ



自由と平和のための京大有志の会 あしたのための声明書

わたしたちは、忘れない。

人びとの声に耳をふさぎ、まともに答弁もせず法案を通した首相の厚顔を。
戦争に行きたくないと呼ぶ若者を「利己的」と罵った議員の無恥を。
強行採決も連休を過ぎれば忘れると言い放った官房長官の傲慢を。

わたしたちは、忘れない。

マスコミを懲らしめる、と恫喝した議員の思い上がりを。
権力に媚び、おもねるだけの報道人と言論人の醜さを。
居眠りに耽る議員たちの弛緩を。

わたしたちは、忘れない。

声を上げた若者たちの美しさを。
街頭に立ったお年寄りたちの威厳を。
内部からの告発に踏み切った人びとの勇気を。

わたしたちは、忘れない。

戦争の体験者が学生のデモに加わっていた姿を。
路上で、職場で、田んぼで、プラカードを掲げた人びとの決意を。
聞き届けられない声を、それでも上げつづけてきた人びとの苦しく切ない歴史を。

きょうは、はじまりの日。

憲法を貶めた法律を葬り去る作業のはじまり。
賛成票を投じたツケを議員たちが苦々しく噛みしめる日々のはじまり。
人の生命を軽んじ、人の尊厳を踏みしめる独裁政治の終わりのはじまり。
自由と平和への願いをさらに深く、さらに広く共有するための、あらゆる試みのはじまり。

わたしたちは、忘れない、あきらめない、屈しない。



あしたがまっている（こども語）

わたしは わすれないぞ

ひとのはなしをちゃんと きかないで
むりやり おかしなきまりを つくったおとなを
「けんかはいやだ」のきもちを わがままと きめつけて
ばかにしていた つめたいおとなを

ぼくは わすれないぞ

こわがらせて いばっていた おとなのかおや
こわがって ペコペコしていた おとなのかおを
たいせつな おはなしをしているのに
ぐうぐう ねていた おとなのかおを

わたしは わすれないよ

おかしいことは おかしいと つたえようとした
おねえさん おにいさんたちの しんけんなおを
おばあさん おじいさんたちの おおきなこえを
だれにも あやつられない おとなたちの ゆうきを

ぼくは わすれないよ

つらいおもいでを むねにして たちあがった おとなを
きっぱり むねをはって こぶしをつきあげた おとなを
きいてもらえないかも しれないのに
ずっと こえをあげつづけた たくさんの おとなたちを

きょうからは わたしが ぼくが はじめるんだ

おとなが まちがったら わたしたちが なおす
ひとのはなしを きけるひとを ぼくたちが えらぶ
じぶんかってな おとなは わたしたちが やめさせる
「じゆう」や「へいわ」は ぼくたちの て で つかむんだ

わたしは わすれない

ぼくは わすれない

まだ なにも おわっていないから

あした が まっているから



反戦・平和のことば集

平和への道はない。平和こそが道なのだ。

ガンジー（インドの弁護士、宗教家、政治指導者 / 1869～1948）

平和は力では保たれない。

平和はただ分かりあうことで、達成できるのだ。

アインシュタイン（理論物理学者、ノーベル物理学賞受賞 / 1879～1955）

平和は戦争よりもよい。というのは、平時において息子たちは父親たち埋葬し、戦時において父親たちが息子たちを埋葬するからである。

フランシス・ベーコン（英国の哲学者、神学者、法学者 / 1561～1626）

愛国心とは、自分が生まれたという理由で、その国が他よりも優れているという思い込みのことである。

バーナード・ショー（アイルランドの劇作家、ノーベル文学賞受賞 / 1856～1950）

平和は神から人間への贈り物ではなく、人間同士の贈り物であることを忘れてはいけない。

エリ・ヴィーゼル（ルーマニア出身のユダヤ人作家、ノーベル平和賞受賞者 / 1928～）

みんな平和について語るけど、誰もそれを平和的な方法でやってないんだ。

ジョン・レノン（英国のミュージシャン、ビートルズのリーダー / 1940～1980）

人類は戦争に終止符を打たなければならない。さもなければ、戦争が人類に終止符を打つことになるだろう。

ジョン・F・ケネディ（米国の第35代大統領 / 1917～1963）

人知を超えた平和は望みません。平和をもたらす人知を望みます。

ヘレン・ケラー（米国の教育家、社会福祉活動家、著作家 / 1880～1968）

地球は先祖から受け継いでいるのではない、子どもたちから借りたものだ。

サン＝テグジュペリ（フランスの作家、操縦士 / 1900～1944）

戦争を知らないでいると、いつまでも戦争はなくなる。

集英社 編集部

もっとも立派な武器はもっとも大きな悪をなす。知恵深き人は武器に頼ることはしない。彼は平和を尊ぶ。彼は勝っても喜ぶことをしない。戦勝を喜ぶことは殺人を喜ぶことを意味する。殺人を喜ぶような人は、人生の目的に達することはできない

老子（中国春秋時代の思想家で道教の始祖）

私は平和を望まないわけではないが、平和の名に包まれた戦争を怖れる

キケロ（古代ローマの哲学者・政治家）

平和を祈る者は、一本の針をも隠し持っていないはならぬ。自分がたとい、のっぴきならぬ破目に追い込まれたときの自衛のためであるにしても、武器を持っていたら、もう平和を祈る資格はない

永井隆（医学博士・長崎医大で被爆）

- ・町の中の変な人、妙な人が排除されないことが平和な時代の証なんだよ
 - ・平和ねエ。戦争から戦争までのつなぎの部分、平和というんじゃないんですか
 - ・子供達が毎日楽しく生きているかどうか。それが平和かどうかということです
- 永六輔

私が言っているのは本物の平和である。それは人生が生きるに値すると思わせる平和であり、すべての人々や国々を発展させ、夢を抱かせ、子供たちのためにより良き生活を打ち立て得る平和である。それはアメリカ人だけのための平和ではなく全人類のための平和であり、我々の時代だけの平和ではなく全ての時代の平和である

ジョン・F・ケネディ

平和の反対は戦争ではない。平和と戦争に対する無関心である

エリ・ヴィーゼル（ハンガリー出身のアメリカのユダヤ人作家・ホロコーストを体験）

うばい合えば足らぬ わけ合えばあまる うばい合えばあらそい わけ合えばやすらぎ
うばい合えばにくしみ わけ合えばよろこび うばい合えば不満 わけ合えば感謝 うばい合えば戦争 わけ合えば平和 うばい合えば地獄 わけ合えば極楽

相田みつお

明日戦争がはじまる

宮尾節子

まいにち
満員電車に乗って
人を人とも
思わなくなった
インターネットの
掲示板のカキコミで
心を心とも
思わなくなった
虐待死や
自殺のひんぱんに
命を命と
思わなくなった
は
じゅんぴ
ばつちりだ
戦争を戦争と
思わなくなるために
いいよ
明日戦争がはじまる

水曜日 2014.0709 第4回 満開 隔週 (ジグザグ)

平和願う詩 拡散中

「明日戦争がはじまる」 ネットで話題に



「明日戦争がはじまる」と題された詩が、インターネット上で話題になっている。安部公房が第二次世界大戦の経験から「明日戦争がはじまる」という詩を詠んで、その詩がネット上で拡散された。作者は宮尾節子（みやお せうし）という女性で、7年前の作品である。この詩は、戦争を戦争と思わなくなるために、インターネットの掲示板で「明日戦争がはじまる」という言葉を繰り返すという内容で、ネット上で話題になっている。作者は宮尾節子（みやお せうし）という女性で、7年前の作品である。この詩は、戦争を戦争と思わなくなるために、インターネットの掲示板で「明日戦争がはじまる」という言葉を繰り返すという内容で、ネット上で話題になっている。

埼玉の詩人・宮尾さん 7年前の作品、今の世相反映

2014年度「8・6平和のつどい」で紹介した「詩」です。

ヒトラーの言葉から学ぼう ～あなたは、どんな大衆・民衆ですか？～

- ・「大衆は小さな嘘より、大きな嘘にだまされやすい。なぜなら、彼らは小さな嘘は自分でもつくが、大きな嘘は怖くてつけないからだ。」
- ・「人々が思考しないことは、政府にとっては幸いだ。」
- ・「弱者に従って行くよりも、強者に引っ張って行ってもらいたい…大衆とはそのように怠惰で無責任な存在である。」
- ・「新聞はピアノの鍵盤のようなものである。その弾き方によって、人々にあたかも天国を地獄に、地獄を天国にも思わせることもできる。」
- ・「嘘を大声で、十分に時間を費やして語れば、人はそれを信じるようになる。」
- ・「大衆の多くは無知で愚かである。」
- ・「民衆がものを考えないということは、支配者にとっては実に幸運なことだ。」

アドルフ・ヒトラー（1889～1945）ドイツの独裁政治家。オーストリア生まれ。1919年ドイツ労働者党に参加、これをナチスと改称し、21年党首となる。23年ミュンヘン一揆に失敗。ワイマール共和制打倒・ベルサイユ条約打破・反ユダヤ主義を主張、党勢を伸ばす。33年首相に就任し一党独裁制を確立。翌年大統領を兼ねて総統となり、軍備を拡張し対外侵略を強行。39年第二次大戦を起こすが、ベルリン陥落直前に自殺した。



ゲーリングの言葉から学ぼう ～今の日本と、にいていませんか？～

「もちろん、国民は戦争を望みませんよ。運がよくてもせいぜい無傷で帰ってくるぐらいしかない戦争に、貧しい農民が命を懸けようなんて思うはずがありません。一般国民は戦争を望みません。ソ連でも、イギリスでも、アメリカでも、そしてその点ではドイツでも、同じことです。政策を決めるのはその国の指導者です。……そして国民はつねに、その指導者のいいなりになるよう仕向けられます。国民にむかって、われわれは攻撃されかかっているのだと煽り、平和主義者に対しては、愛国心が欠けていると非難すればよいのです。このやり方はどんな国でも有効ですよ。」

ヘルマン・ヴィルヘルム・ゲーリング(1893～1946)はナチス・ドイツの空軍総司令官や国家元帥等を務めた人物でドイツ軍の最高位「帝国元帥」等を務めた。IQ138、ナチス政権のナンバー2。戦後は戦犯として捕えられ、ドイツ敗戦後ニュルンベルク裁判で死刑を宣告後、執行前に収容先の独房で青酸カリで自殺を遂げた。



～ ここ数年の国会での動き ～

2014.7.1

集団的自衛権行使を容認 閣議決定

- ・新たな憲法解釈により限定的な集団的自衛権の行使を容認
- ・こんな大事なことを閣議決定で決めていいのだろうか

2014.12.10

特定秘密保護法施行

- ・「基本的人権の尊重」を侵害するおそれ
- ・国民の知る権利、思想・良心の自由、取材の自由といった憲法的権利との間で問題が生じる余地がないとは言えない

2016.3.29

安全保障関連法施行

- ・集団的自衛権の行使のための法律
- ・多くの憲法学者が違憲だと判断するなかで、2015. 9. 19 参議院で強行採決

2017.7.11

「共謀罪」(改正組織犯罪処罰法)施行

日本は、
どこに
向かって
いるの？



- ・様々な部分で違憲性があると指摘されている
- ・市民生活を監視する捜査により、国家が内心に立ち入る可能性がある
- ・市民活動が処罰対象になる可能性がある
- ・犯罪実行前の合意を処罰する為、その犯罪対象が不明瞭である
- ・・・など、多くの部分で違憲性が指摘されている

～ 一方、世界では ～

世界は、
どこに
向かって
いるの？

2019. 8. 2

米ロ、INF 廃棄条約失効 「核なき世界」さらに後退

【モスクワ、ワシントン共同】冷戦後の核軍縮の支柱となった米ロの「中距離核戦力 (INF) 廃棄条約」が 2 日失効した。米国は 2 月、ロシアの条約違反を理由に破棄を通告、違反を否定するロシアとの対立が解けないまま条約が定めた失効日を迎えた。条約の消滅により「核兵器なき世界」を目指す国際的な軍縮の機運がさらに後退するのは避けられない。

(共同通信より…8/2(金) 6:13 配信)

条約失効により、欧州だけでなく、世界の安全保障
が損なわれる！ (ゴルバチョフ氏が強く批判)



あとがき

2020 年度「8・6 平和のつどい」は、新型コロナウイルス感染症が世界的大流行となり、また福岡、北九州においても感染者が出たことを受け、中止となりました。その代わりとして「リモート明日があるさ」「千羽鶴づくり」「反戦・平和学習実践資料集」にとりくみました。「千羽鶴づくり」はこれまで「つどい」に参加してくれた皆さんに折り紙を送り、折り鶴にして返送して頂きました。たくさんの折り鶴と一緒に、心温まる手紙も送られてきました。その手紙の中から一つだけ紹介します。中学 1 年生の男子からの手紙です。

「8・6 平和のつどい」実行委員会のみなさまへ

お元気にされていますか？

平和のつどいについてのお知らせありがとうございました。そして、たった数羽の折り鶴ですが、活動に参加させていただきありがたい気持ちでいっぱいです。毎年 8 月が迫ってくると、今から 75 年前に起きたことを考えます。

去年は特にたくさんの機会を頂きました。北九州の青少年を代表し、ナガサキへの研修に参加させていただいたり、「8・6 平和のつどい」にも参加させていただきました。

「つどい」が中止になっても実行委員会のみなさまを中心とし、鶴を通して平和を願うすべての人々とつながっていることにコロナの時代において考えさせられます。

みなさまの健康。そして、世界中のすべての人に平和の灯が照らされるよう今年も心から願っています。

♡Wish for lasting peace♡ ○○中 1 年 ○○

この「反戦・平和学習実践資料集」は、世の中の様々な動きに対して「無関心」な子どもをつくらないことを目指しています。どの実践も、北九州の教職員が手作りで生み出したものです。「平和学習」の「切り口」は様々なものがあります。子どもの実態、クラスの実態に合わせて、創意工夫を加味し、あなたの「実践」、あなたの「切り口」で「反戦・平和学習」にとりくまれてください。最後に反戦・平和学習の実践を提供していただいたみなさんに感謝いたします。

2020 年 7 月 31 日 北九州市教職員組合
(※なお、この「実践集」に掲載されている「実践」は、下記ホームページにアップする予定です。)

お問い合わせ

北九州市教職員組合（北九州教育会館）

TEL (093) 9 5 3 - 0 3 8 1

ホームページアドレス

<https://shikyouso-kitakyu.net/>



教え子をふたたび戦場に送らない